

高等学校の実践事例について

高等学校教員のパートナーズプログラムへの参加は2010年度からである。

高等学校の授業では、校外学習の機会は少なく、県内の高等学校来館数は伸び悩んでいる。しかし、博物館での見学を活きた歴史学習の場としてとらえ、博物館との連携によって長崎の歴史を知ること、歴史をより身近に感じて欲しいと考える参加者も多い。

長崎県立明誠高等学校の橋本正信先生は、総合学科制の設定科目として開設している「郷土研究」講座で、学校に講師を招聘しての特別講義や博物館での研修など、連携した授業を実施している。

長崎県立鳴滝高等学校の藤村誠先生は日本史選択者を対象に博物館の展示室とバックヤードの見学をおこなった。通常の授業で町歩きを取り入れているため、館内の展示とリンクする場面も多く、バックヤード見学は職業選択の1つの参考としても有意義であると述べられている。

長崎県立希望が丘高等特別支援学校の陶山美紀先生は、郷土への思いを深めることを目的に移動博物館と出張授業を学校でおこなった。移動博物館での体験を通じた学習や出張授業での資料の読み解きを通して、長崎の歴史についての学習を深める機会となったようである。

また高校卒業後に長崎を離れる生徒も多いため、進路決定者を対象にした授業をおこなう参加者もあり、純心女子高等学校の袖山道典先生は博物館見学を、活水高等学校の岩永崇史先生は出張授業を実施している。

高等学校の実践数は限られているが、それぞれの学校の特徴に応じた実践がされている。

(当館教育普及グループ 研究員 下田幹子)

高等学校 実践一覧

学年	教科	テーマ	学校名	年度
1年生	世界史A	近代の世界史（実践案）	長崎県立長崎西高等学校	2010
2年生	生活単元学習	出島～世界と日本の交流の窓口	長崎県立希望が丘高等特別支援学校	2010
3年生	世界史	辛亥革命	活水高等学校	2011
	地歴・公民	「長崎の歴史と平和を考える」	純心中学校・純心高等学校	2011
	日本史B		長崎県立鳴滝高等学校定時制昼間部	2011
	日本史	江戸時代の文化	活水高等学校	2011
2・3年	日本史	幕末の日本	活水高等学校	2010
	総合	「郷土研究」講座	長崎県立長崎明誠高等学校	2010/2011

1年生	教科：世界史A	単元名：近代の世界史	10月～2月	4時間
実践校：長崎県立長崎西高等学校（実践案）		授業担当者：安達典久		
目 標	「長崎から見える世界史」ヨーロッパ・アジアの近代史における長崎とのかかわりを調べ、歴史を身近なものとする。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
ロシア最後の皇帝ニコライ2世と長崎	2	世界史の中のロシア帝国は、クリミア戦争に破れた後に近代化を進めるが、国内に矛盾を抱え、周辺国を侵略することで国民の不満をそらそうとしていた。 地中海進出をねらった南下政策は、ことごとく失敗し、冬でも凍らない港「不凍港」を目指して、アジアに進出してくる。第二次アヘン戦争といわれるアロー戦争の条約を仲介したため、国境条約の北京条約を清と結び、ウラジヴォストーク港を手に入れる。さらに南下を目指すロシアに対して不信をいだく日本。このような世界情勢の中、皇太子であったニコライの日本・長崎訪問が実現している。その後起こる皇太子殺傷事件「大津湖南事件」とともにその時代を探訪していく。	世界史Aは、高校生の必修科目であるが、週二時間の単位では、とても、世界史全般を網羅できない。そのため現代を知るに必要な近代史に力を入れている。	
孫文と長崎	2	19世紀末から20世紀にかけての中国の民族独立運動を、孫文の活躍を通して見ていく。孫文の三民主義や中国国民党の創立にふれながら、長崎を何度も訪れ、華僑や日本の友人の援助によって活動できた軌跡をおう。梅屋庄吉との友情の話も加える。	しかし、世界の歴史は範囲が広く、様々な国が時空を超えて交差するので把握が難しい。 まずは郷土の世界史との関わりから、生徒の興味を引きだし、実のある歴史の授業を目指している。 「孫文と梅屋庄吉」のビデオや本を紹介していく。	
評 価 規 準	(1) 身近な長崎の歴史から、世界の歴史が垣間見られたか。 (2) 教科書や図説に出てくる人物が、長崎を訪れた経緯を調べ、その内容と影響が把握できたか。 (3) 世界と日本を繋ぐ国際都市であった長崎を、君たちのアイデアと努力でどう発展させていけるのかを考え得たか。 (4) 高校生らしい新しい発想で、長崎の歴史をアピールできただろうか。			

2年生	教科：生活単元学習	単元名：出島～世界と日本の交流の窓口	7月6～14日	20時間
実践校：長崎県立希望が丘高等特別支援学校		授業担当者：2学年担当職員		
目標	○鎖国時代の長崎の様子を知り、郷土への思いを深める。 ○テーマに合わせた公共施設の利用法、マナーを確認する。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 江戸時代の長崎の様子を知る①	0.5 ×4	○江戸時代の歴史背景について理解する。 ○日替わりで4つのテーマ「江戸時代」「シーボルト・天草四郎・坂本龍馬・グラバー」「ペリー」「出島・鎖国・南蛮屏風・カステラなど」にあわせて本をクラスに配布し、気に入った情報を見つけたら、付箋に名前と、感想を記入して貼っておく。 (本は県立図書館へテーマを伝えて借用)	国語：読書の時間	
2. 7月の生活単元学習について	1	○7月の生活単元学習について日程、内容説明。 ○デリバリーミュージアムでのマナー確認。 ○たらみ図書館、多良見体育センターでのマナー確認		
3. 江戸時代の長崎の様子を知る②	0.5 ×2	○江戸時代について教科書で確認。 ○問題集を解いて、内容を確認。		
4. 昨年の出島見学の復習	1	○昨年の出島見学で学んだことを思い出す。プリントで確認。		
5. 江戸時代の長崎の生活を知る(デリバリーミュージアム)	1	○中国との交流を知る。 ○貿易品の値段当てクイズ等、展示品を通して長崎の生活を知る。 ○当時の日本が長崎の出島を通して世界と交流しており、様々な文化や珍しい物が入って来ていたことを理解する。		
6. 出島についての研究テーマ決め	1	○出島について、もっと詳しく知りたいことをクラスでテーマを決める。 ○県立図書館より借用した図書を利用してテーマを絞る。	国語：文章読解	
7. 歴史文化博物館による出張授業	1	○出島での生活について詳しく知る。 ○出島の生活絵図のパズルを完成させることを通して、生活の様子を細かく見る。		
8. テーマについて調べる①	1	○県立図書館から借用した図書を利用してテーマについて調べる。	国語：文章読解	
9. お礼状書き	1	○自分達の学習が多くの人の協力で成り立っていることを理解する。	国語：手紙	
10. テーマについて調べる②	3	○たらみ図書館でクラスごとに調べる。	国語：文章読解、壁新聞作り	
11. 出島から入ったスポーツを体験	3	○多良見体育センターでバドミントンを体験する。	体育：バドミントン	
12. 発表会	3	○テーマに沿って模造紙にまとめる。 ○学年での発表会を行う。		
評価 規準	◎生徒が目標を持ち、見通しを持って、単元の活動に積極的に取り組めたか。 ◎一人一人の生徒が力を発揮し、主体的に取り組むと共に、集団全体で単元の活動に共同して取り組めたか。 ◎豊かな内容を含む活動で組織され、生徒が多種多様な経験ができるよう計画されたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

（生徒の感想文より）

○私は歴史や人物のことがわかりました。知らないことがたくさんなので勉強になりました。

○印象に残ったのは、眼鏡橋の模型と絵巻物が印象に残りました。私は、あまり歴史文化博物館に行ったことがないので、今度行ってみたいと思いました。

○江戸時代の長崎にはオランダと中国の人達が貿易していた事を実際に自分の目で見たように知ることができました。

○一番すごかったのは、象の牙がすごかったです。



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

本校は、来年度で創立20周年を迎える県下で唯一の高等特別支援学校であり、在籍している生徒は軽度知的障害を抱えているが、就労を目指し日々努力している。小学校在学時より、学校での学習に遅れがみられ、生徒の半数は中学時に特別支援学校や学級に在籍していた生徒達が多い。本校では、授業での開講科目を絞り、「社会」や「歴史」などの教科を開講していないため、ほとんどの生徒が「出島」「踏み絵」「鎖国」「江戸時代」等といった単語を聞いたり、知ってはいるが、自分達の住んでいる長崎という土地と関連して考える機会がない。特別支援学校では、生徒の生活力の向上のために、校外学習や生活単元学習といった単元を設定することができ、今年の2年生は1年次で出島和蘭商館の見学と、長崎市内の見学を行い、2年生の5月には、島原市内に出かけ災害記念館や島原城、島原の乱等について学習を行った。

今回は学習を深める機会として歴史文化博物館によるデリバリーミュージアム・出張授業をお願いし、生徒の知的好奇心を引き出すことができた。知的障害のある生徒の特徴として、集中力に欠けることがあげられるが、今回デリバリーミュージアムでは、テーマごとに展示物を絞ってあったこと、実際に臭いを嗅いだり、触ったりできること、少人数で説明を受けられたことで集中力が持続していた。また、出張授業でも、少人数でパズルを組み立てながら、気付きを発見していく方法で一人一人が主体的に参加することができ、充実した時間を過ごすことができた。たまたま、今回は、1年生が翌日に歴史文化博物館へ校外学習に出かける予定があり、1年生もデリバリーミュージアムに参加させて頂いた。担当者によると、デリバリーミュージアムで興味・関心を持ったことを翌日もっと詳しく観たいと、生徒のモチベーションも上がり、当日も熱心に見学できたとのことだった。

3年生	教科：世界史	単元名：辛亥革命	10月	2時間
実践校：活水高等学校		授業担当者：貝野尚子		
目標	1. 辛亥革命について、その歴史的意義を理解する 2. 長崎歴史文化博物館での見学を通して、具体的にモノや写真(映像)から歴史を見て学ぶ 3. 辛亥革命前後の長崎と中国のつながりを理解する			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
辛亥革命について	1	清朝末期、列強の進出の中で起きた辛亥革命の原因、経過、結果からその歴史的意義を学ぶ。また、革命の中心であった孫文の人物像を長崎との関わりを交えながら紹介。 博物館見学の予告と注意点を指導。		
博物館での見学	1	博物館の展示から孫文や梅屋庄吉の人間像、長崎という土地と中国との関係を学び、教科書の出来事ではなく、身近な歴史として感じる		
評価 規 準	○博物館での見学態度 ○レポート（特別展を通して学んだことをまとめる）			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

生徒たちの感想

○とても楽しい一日でした。やっぱり実際に博物館に行くと本物に触れると、歴史がぐんと近くなる気がします。今まで「歴史上の1人」でしかなかった孫文が尊敬の対象としての認識にかわりました。「教科書の中の人」と考えるとどこか現実味がないような気がしていますが、むしろ教科書にのるくらいの壮絶な人間ドラマを持った人なのだという、当たり前のことを再確認させられた1日でした。

今回の見学で一番強く感じたことは「友情は国境を越える」ということです。梅屋庄吉さんと孫文さんは、当時の日中関係からみても、相当な危険をとまなう付き合いだったと思います。それでも支援をし続けた梅屋さんと、革命を訴えた孫文さんは、本当に強い絆で結ばれていて、お互いの信頼も厚かったのだと思います。そんな2人の友情がとても素敵だなと思いました。

○今まで梅屋庄吉のことが知られていなかったのに、このような特別展を通して映像を見たり、資料を見たりすることで様々なことを知れた私達は、同じ長崎の人として、日中関係がよりよくなるための架け橋にならなければいけないと思います。そのためには、知ることが1番大切だと思います。長崎は昔から中国との関わりが深く、知る機会はたくさんあると思うので、今回のような特別展に積極的に参加したいと思います。

また、中国に限らず、他国と日本の歴史を知ることによって、異文化・国際社会理解につなげていきたいです。私は今回の特別展を通して、今の日中関係があるのは梅屋庄吉のような人がいたからだと思うので、教科書に載っていない、偉人について興味が湧き、もっと知りたいと思いました。

○今まで梅屋庄吉という人物を全く知らなかったが、孫文を支援し、犬養毅や蒋介石など教科書に必ず載っている多くの人物たちと親交がある梅屋は、教科書に載ってもおかしくないくらい、すごい人物だと分かった。また、日本最古の映画製作会社（日活）をつくったのも彼だと知り驚いた。また、孫文だけではなく、親を亡くした子どもたちのために里親探しに積極的に活動した彼は、心が広く、優しい人だと思った。このような彼の性格だから、彼にはたくさんの人が集まり、大きな人間関係ネットワークが、日中関係が悪化してゆく中でも広がっていたのだと思う。長崎は本当に中国と近く、つながりが深い地域だと改めて感じた。

※レポートは①特別展で学んだこと ②感想の2点をまとめて提出させました。また、見学後図書館で、印象深かった展示や館内でおもしろかったものなどを振り返って話し合いました。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

長崎は中国との関わりが深い土地である。歴史の中で長崎は大きな役割を果たした。今回辛亥革命を学ぶにあたり、ちょうど100周年の特別展が博物館で展示があったので、孫文と長崎の関わりを深く追求できたらいいなと考え、博物館見学を授業の一つとして取り組むことを考えた。

活水はキリスト教建学の精神に基づき日曜は午前中礼拝のため、午後からの見学となった。初めて歴史文化博物館に来た生徒もいた。学芸員による説明を聞きながら特別展は回りたいと思い、少し時間があつたので先に大河ドラマ館を見学した。よく大河ドラマを見る生徒がいたので、興味津々に説明を読んでいた。時代劇(?)も催されていて、特別展に行く前にとっても楽しんだ様子だった。メインの特別展では、学芸員の方が一つ一つ丁寧に説明して下さったので、生徒もなるほどといった様子で話を聞いていた。一通り説明が終わった後、最初の展示室に戻って気になる展示物をじっくり見たり、聞き逃してよく分からなかった所の確認を行った。同じものを一緒に見ることで、それぞれが感じたことを共有できたのがよかった。

改善点としては、受験生ということもあつたのでその後の振り返りが十分にできず、レポートの提出のみに終わったこと。ただ、レポートを見る限りでは、博物館見学を通して歴史を身近に感じたこと、長崎という場所が歴史の発信地だったこと、人と人との交流は国を超えるということなど、多くのことを学べた。

今後は博物館で見るだけでなく何かの体験を通し、歴史は教科書や資料集の中だけのことではなく、生活に中に息づいているものと理解させるような学びを行いたい。

3年生	教科：地歴・公民	単元名：「長崎の歴史と平和を考える」	2月	3～6時間
実践校：純心中学校・純心女子高等学校		授業担当者：袖山道典		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在住んでいる長崎の地理，歴史を学び，見聞を深める。 ・歴史的遺構の価値を知る。 ・公共のマナーをわきまえ，団体行動を意識する。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 事前注意	1	・博物館利用上の注意を学年で実施。		
2. 当日の見学 点呼，バス乗車 ・学芸員講話 ・企画展見学 ・長崎奉行所見学 ・立山防空壕見学 お礼の挨拶	3	・2012（平成24）年2月7日（火）実施。 ・高3参加者121名。最初に全員で学芸員講話。 その後4グループに分かれ，企画展「孫文と梅屋庄吉展」見学，長崎奉行所見学，立山防空壕見学を実施。「孫文と梅屋庄吉展」は，博物館作成のプリントを活用。送迎バスを利用。ボランティアガイドさんの協力を得た。		
3. 事後学習	2	・クラス別に2グループで実施。1グループは翌日以降の原爆資料館見学に備え，平和学習。もう1グループで事後学習として，DVDを観覧。		
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎の歴史を主体的に学ぼうとしたか。 ・歴史的遺構の価値を学ぶことができたか。 ・公共のマナーをわきまえ，自覚を持った行動ができたか。 			
授業担当者による自由記述（活動の特徴，苦勞した点，改善点，学びの発展等）				
<ul style="list-style-type: none"> ・翌週に卒業を控えた高校3年生の進路決定者を対象とした，家庭学習期間の研修の一環として実施。長崎を離れる者も多く，自分の住む「長崎」を感じさせるものができればと思った。来館したことの無い生徒が3分の1程度。 ・担当者自身がぎりぎりまで大学受験指導を行っていたこと，受験や卒業を控えた高校3年所属の教師の多忙さから，連絡・打ち合わせ・準備のための時間はほとんどなかった。博物館のプログラムにそのまま乗った形となった。学校側としては送迎バスや打ち合わせなども必要最小限で，とてもありがたかった。 ・「孫文と梅屋庄吉展」の内容の時代背景は，高1の世界史A，日本史Aで学習している。（辛亥革命など）内容としては若干難しかったようであった。クラスや選択科目により，興味・関心の度合いが異なった。その後のDVDなどの事後学習で，孫文や梅屋庄吉の位置づけが理解できたようであった。 ・長崎奉行所，立山防空壕については，意欲的に見学をしていたように思う。ボランティアガイドさんの協力が何よりうれしかった。説明も丁寧であった。 ・生徒は，自覚を持って行動できたように思う。高校生であることもあり，あえてワークシートはこちらからは準備せず，博物館側から提供されたプリントを活用した。特にレポートや感想文なども求めなかった。 ・高校生の授業では，校外で学習する機会のはめったにはない。座学ではなく，活きた歴史の学びの場であったと思う。 ・常設展がリニューアル中であったのが何よりも残念であった。 				

3年生	教科：日本史B	単元名：	月～月	時間
実践校：長崎県立鳴滝高校定時制昼間部		授業担当者：藤村誠		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・資史料に基づいて歴史が記述されていることを理解する。 ・通史学習に郷土史を加味することにより、生徒の興味・関心を高めるとともに、郷土に対する誇りを醸成する。 ・身近な文化財に触れることで、文化財保護への関心を高め、地域の文化遺産を尊重する態度を養う。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1年次 歴史文化博物館 「龍馬伝館」見学	2			
2年次 シーボルト記念館見学	1	・年度当初に日本史Bの授業を6校時に設定するよう教務に依頼。実施に際しては、6校時及び掃除や帰りのSHRを免除してもらうことで時間を確保。		
3年次 1. 長崎の町を歩こう① 長崎街道～古橋・一ノ瀬 橋界限	1	・日本史Bの授業の単元に応じて、学校から徒歩で移動できる場所を選択して実施。		
2. 長崎の町を歩こう② 諏訪神社、サントドミン ゴ教会跡	1	・見学の際、「長崎大学電子化コレクション」 http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/search/ecolle/ の古写真を利用して、幕末・明治期と現在の風景の相違点を意識させる。		
3. 夏期下記休業課題 「長崎の歴史に目を向けよう」		・夏季課題については、生徒たちが居住していたり通学に利用する道など身近な地域の歴史を調査させる。		
4. 長崎の町を歩こう③ 長崎歴史文化博物館 常設展見学	2	・博物館見学は教師が説明するのではなく、博物館の担当者による解説をお願いする。その方が生徒たちの取組への意識は向上する。		
5. 長崎の町を歩こう④ 上野写真局跡、若宮稲 荷	1	・博物館見学の基本的マナーについても理解させる。		
評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資史料に基づいて歴史が記述されていることが理解できたか。 2. 歴史学習への興味・関心が高まったか。 3. 文化財保護への関心が高まったか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

●歴史文化博物館見学全体的な感想

- ・長崎の町が江戸時代からあまり変わらずに残っているものがたくさんあると聞いて驚いた。江戸時代から長い間、長崎のたくさんの人たちが長崎の町を大切にしてきた結果なのだと思うと、私もこの町に誇りをもって、長崎の町そのものや文化を大事にしなければならないと思いました。
- ・今まで博物館はわざわざ行くほどじゃないと思っていた。でも実際に行ってみると思ったよりも楽しかったし、いろいろ学べてよかったです。昔来たときに気がつかなかったことに気がついた。
- ・解説付きで見学すると新鮮。前々から何となく入りがたい、どこか堅苦しいという先入観をもっていましたが、見事に払拭することができた。
- ・長崎の歴史も奥が深いことを改めて感じた。最後に行った博物館の裏側はワクワクした。
- ・博物館には何度か行ったことがありますが、詳しく見ていなかったの、今回きちんと見ることができて良かったです。見落とすような所も案内の人に教えていただいてよくわかりました。博物館のバックヤードを見ることはもうないと思うので、貴重な体験ができました。
- ・博物館の裏側では、本物の古い本や資料などが大切に保管されていたり、虫くいにあったものを修復する人がいたり面白かった。博物館の裏側で働いてみるのも楽しそうだと思います。
- ・勉強したことがちょいちょい出てきて、改めて「すごい」と思えることがあった。唯一残っているカメラや、船底の砂糖の話など、知らないことがある中、ふと知っていることが少しでもあると、嬉しい気がした。いつもなら見ることができない、博物館の裏側も見学できて、貴重なことを体験できた。虫食穴の修理とかも見たかったです。
- ・見学中に幕末の資料もあって、読むのが難しかったし、授業で習ったことを見つけて何となく感激した。
- ・今回は見たことがない物を沢山見ることができてとてもいい見学になりました。模型とかリアルですごかったです。唐人屋敷一度行ってみたいです。博物館の中はもちろん興味深いものばかりでしたが、裏の資料室を見せて貰えたことは一番いい体験になったと思います。普段は決して見られない様々な部屋が見れて、博物館はただ見て回るだけの所ではないことを改めて感じました。一度手にとって資料を見てみたいと思いました。貴重な体験でした。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

私の場合、歴史文化博物館の見学については、「歴博をつかって是非こういう教育効果を！」という意気込みを持って臨んでいる訳ではありません。高校で日本史を選択している生徒であっても、博物館は自ら積極的に足を運ぶ場所ではありません。ですから「博物館ってこんな雰囲気なんだ」とか「博物館ってなかなかおもしろそう」（できればまた来てみたい）という気持ちを持ってもらえればというのが正直なところですが、生徒たちが見学後に提出したワークシートを見ると、私の目的を少しは達成できていると思います。

今回の見学に関しては、博物館見学の時間が短すぎました。担当者からの説明の時間に加え、生徒たちの自由見学の時間をもっと増やすべきだったと思います。

現在勤務している鳴滝高校は長崎市内の低地部にあり、周辺に多くの歴史的遺産が残っています。こうした遺産をどうやって授業に取り込み、歴史を身近に感じ、そして郷土に誇りをもってもらうかというのが最近の私の課題です。そういう視点で、博物館の見学や町歩きを行っています。当然のことながら教科書で日本の通史学習は行わなければならないのですが、比較的時間が潤沢にあり、郊外での学習が徒歩にて可能、しかも好意的な職場環境なので、こうした学習ができていると思います。

3年生	教科：日本史	単元名：江戸時代の文化	1月	3時間
実践校：活水高等学校		授業担当者：岩永崇史		
目標	① 日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解する。 ② 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 ③ 体験学習を通して、歴史の楽しさ、奥深さを学び、自ら学び、自ら行動できる力を養いつつ、生涯教育のきっかけの一つとなる授業を生徒と共に分かち合うこと。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
江戸時代の文化を学び、「浮世絵」「錦絵」の位置づけを学習する。	1	寛永文化、元禄文化、化政文化を比較しながら、江戸時代の人々の生活にどのように根付き、浸透していったかを分かち合う。		
「長崎版画」の来歴を学習し、合羽摺の体験学習を行う。	1	「長崎版画」の来歴を押さえ、生徒の興味関心を高めながら、実施に合羽摺を体験し、一人一人仕上げる達成感を味わうことができているか。		
体験学習を通して学んだことを分かち合う。	1	江戸時代の文化が教科書や資料集の中だけで完結するのではなく、自分たちの生活の中に息づいているものであることを理解させたい。また実際の合羽摺自分自身で制作することにより、江戸時代文化を追体験させたい。		
評価規準	① 長崎版画はどのようにして誕生したのか、理解できたか。 ② 長崎版画はどのような技法で制作されたのか、素材などを理解できたか。 ③ 長崎版画は現代生活にどのような形で繋がっているのか、考えることができたか。 ④ 「浮世絵」と「錦絵」、「長崎版画」の相違点や共通点を理解できたか。 ⑤ 時間内に「長崎版画」合羽摺を仕上げる事ができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



2012年1月25日

長崎歴史文化博物館

加藤謙一先生、下田幹子先生へ

長崎歴史文化博物館出張授業

「長崎版画体験授業」を体験して

心に残った一言

1. 長崎版画はどのようにして誕生したのか？
2. 長崎版画はどのような技法で制作されたのか？
(素材など)
3. 長崎版画は現代生活にどのようなメッセージを伝えているとあなたは考えますか？

「質問」

- 江戸時代では合羽摺を最高何枚重ねたのですか？
- 多色摺は長崎版画だけですか？
- なぜ、絵の具があんなにかたかったのですか？
- 当時、「長崎版画」は何円くらいで売られていましたか？

「感想」

- 色をつけることがとっても楽しかったです。小学校の時の図工の授業を思い出しました。江戸時代の職人さんになれた気分でした。上手くぬれなかったところがありましたが、職人さん達は、服の模様など、細かい所もきれいにぬれていてすごいなと思いました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- 普段では経験できないようなことが出来て嬉しかった！出来上がったときの仕上がりが印刷したものと違って、とても味があっていい感じだった。もう少し、時間があつたら、もっと丁寧にして、がんばりたかった。とても楽しかった。
- みんな同じ型で作っているのに、それぞれ個性があつて楽しかったです。またしてみたいです。ありがとうございました。

「質問」

「感想」

Ⅲ年 組 番 ()

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

長崎歴史文化博物館より、研究員の加藤謙一先生、下田幹子先生をお招きして、「長崎版画の出自や変遷」についてスライドを通してお教えいただき、その後実際に長崎版画合羽摺^{かっぱずり}体験をさせていただきました。

加藤先生が「今回使用する型紙のにおいを嗅いでみてください・・・。どんな臭いがしますか？・・・『柿渋』という型紙です。渋みのある柿を絞り、その液体を発酵させて利用します。」とお話下さったときに、生徒達がさっとにおいを嗅いでいる・・・古き良き日本文化に直接触れさせることができた、私は感激。型紙を押さえ、色を一回一回下絵に乗せて少しずつ完成していく長崎版画の絵図、集中している姿を見ながら、生徒達一人一人の学校生活の歩みを垣間見たような気がしました。高校ではそれぞれの進路実現を目指しながら、「卒業」という名の共通の目標へ向かって一日一日授業や学校行事へ地道に取り組み、自分自身日々成長し続けるものです。

今回の体験授業では、一人一人が長崎版画合羽摺を完成することができました。それぞれの個性が滲み出る作品となりました。卒業へ向けて、日本史授業の中で、このような体験学習ができたことを心から感謝申し上げます。何より、お忙しい中、様々なご準備をなさってくださいました、長崎歴史文化博物館の加藤先生、下田先生に厚く御礼申し上げます。今後も、生徒達と共にこのような体験学習の機会を作っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(2012年1月24日(火)活水高等学校5号館1階プレゼンルームにて実施)

2, 3年生	教科：日本史	単元名：幕末の日本	10月28日	2時間
実践校：活水高等学校		授業担当者：岩永崇史		
目 標	<p>1、日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解しながら、幕末の動乱時期について「坂本龍馬」を通して「生きた歴史の息吹」に触れさせる。</p> <p>2、実物資料や写真を触れたり、見たりしながら、歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。</p> <p>3、長崎歴史文化博物館の学芸員の先生による専門的なお話を通して、歴史の面白さや感動を生徒と共に分かち合う。</p>			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・ 他教科関連
	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴代将軍の政策（穴埋め）ワークシート記入 ● 生徒の疑問応答 	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 坂本龍馬登場への大まかな江戸時代の流れを掴むために、徳川幕藩体制の特徴を把握する。 ● 江戸時代を前期中期後期の三段階に分け、徳川歴代将軍の政策を中心に説明する。 	歴代将軍の業績を理解できているか。
	<p>1. 幕末の長崎—異国船の到来—</p> <p>○なぜ、幕末になると外国船が日本近海に現れるようになったのか？</p> <p>○異国船の到来（ペリー来航）が江戸幕府に与えた影響とは？</p> <p>○開国によって長崎はどうかわっていったのか？</p> <p>2. 大浦居留地のはじまり</p> <p>○幕末期の長崎が果たした役割とは？</p> <p>3. 龍馬と長崎の関わり</p> <p>○長崎の地で龍馬を支えた人々（小曾根家、大浦慶、グラバー）</p> <p>4. 幕末の薩摩と長州の動き</p> <p>○なぜ、薩摩と長州は同盟を結んだのか？</p> <p>5. 亀山社中・海援隊の設立とその活躍</p> <p>○長崎で龍馬はどんな活動を行っていたのか？</p> <p>6. いろは丸事件とイカルス号事件</p> <p>○2つの事件を龍馬はどのように解決に導いたのか？</p> <p>7. 近江屋の悲劇</p> <p>○龍馬はなぜ、暗殺されたのか？</p> <p>○龍馬が果たした役割とは？</p> <p>トピック1：龍馬と刀</p> <p>○刀好きだった龍馬にまつわるエピソードを紹介。</p> <p>トピック2：龍馬からお龍へのプレゼント（帯留）</p> <p>○刀好きだった龍馬らしい愛するお龍へのプレゼントを紹介。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の反応はどのようなものか。 ● ワークシートに記入できているか。 	<p>異国船到来の流れを理解しているか。</p> <p>鎖国時代の長崎の役割が理解できているか。</p> <p>薩長同盟への大きな歴史の流れを掴めているか。</p> <p>坂本龍馬とお龍の想いを自分自身で考えることができたか。</p>
	● 授業を受けた後のフォローアップと振り返り	1	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートの記入と、感想 ● 質問に対する検討 	
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートへの記入状況 ● 授業者との呼応 ● 感想文の内容 ● 実見した後の感想 ● 小テストの状況 ● 坂本龍馬の願いを掴めているか ● 坂本龍馬からお龍へのプレゼントの意味を理解できたか ● 幕末の動乱を龍馬がどのように見ていたか ● 幕末を動かした人々の願い 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



Ⅱ年A組英語科・普通科国公立進学コース合同授業(20名)の授業風景。見やすく分かりやすいパワーポイントと、坂本龍馬佩刀のレプリカ実見に感激する生徒。一瀬先生の的確な説明に頷きつつ、熱心にメモを取る生徒の様子が印象的でした。授業当初プロジェクターの接続トラブルでややもたついてしまいました。



Ⅲ年C組普通科普通コース文系日本史選択グループ(28名)の授業風景。週5時間(毎日)生徒と接しているので、一瀬先生の授業を私自身生徒の立場で受けることができ感激。同じ授業であっても、対象生徒の反応の違いで先生も臨機応変に対応してくださいました。授業参観をしてくださった同僚(ⅢC担任)も、新たな発見があり感激

別紙ワークシートより

- 生徒からの質問したいこと
- 生徒の感想より

- ・私自身は新撰組派なのですが、坂本龍馬達が頑張ったからこそ今の日本があるんだと改めて思いました。
- ・龍馬のお姉さんのおかげで龍馬をささえたとききましたが、どのように支えたのでしょうか。
- ・手紙の印でどんな意味があるか。
- ・龍馬は字が上手だったんですか？
- ・暗殺されそうになったとき、龍馬はピストルは使わなかったんですか？
- ・お龍さんは、龍馬のお嫁さんだから、お龍という名前なのですか？それとも本名ですか？
- ・龍馬はなぜ、長崎に来たのですか？
- ・龍馬暗殺の犯人は新撰組だという説もあるそうですが、本当ですか？
- ・お龍さんはどんな人だったのですか？
- ・どうして学芸員になったのですか？
- ・初めて刃を見たので、長くて重い刃ものだと知りませんでした。
- ・龍馬はどのくらい強かったですか？
- ・お元は龍馬に対して恋愛感情を持っていたのですか？
- ・歴史を研究して一番楽しかったことは何ですか？
- ・博物館でのお仕事は楽しいですか？
- ・龍馬以外の仲間の活躍は？龍馬死後はそれぞれどのような生活を送ったのか？
- ・龍馬を殺した犯人はとても刀の達人だったと聞いたのですが、本当ですか？

などなど

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

事前打ち合わせにご来校下さりありがとうございました。実際に実物資料や、詳細なパワーポイントを見せてくださり、当日の授業を迎えるにあたり、楽しみにしながら日々過ごしていました。当日へ向けて、生徒へ時代の流れと、教員間へ当日レジュメの配布などを行い、より多くの先生方に見ていただきながら、生徒の緊張感や集中力を高めようと準備しました。おかげさまで、当日の授業は大変充実して、多くの教職員から感動と御礼のお言葉を頂きました。生徒達に授業後の次の時間に復習や、ワークシートのまとめ、授業のフォローをさせていただきましたが、それぞれに歴史の楽しさを実感したと感想を述べてくれました。

何より、私自身が、社会科教員として日々生徒達と接することが出来ることへの感謝の気持ちが深まりました。そして、学芸員になりたかった学生時代を思い返していました。これからも学芸員の皆様と共に、生徒達、若い魂に歴史教育の大切さと楽しさや悲しさや、生きる実感を分かち合いながら、教育活動を充実させていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

一瀬先生、本当にありがとうございました！！

2. 3年生 (選択科目)	教科：総合	科目：「郷土研究」講座	通年実施	70時間(予定) ※週2時間実施
実践校：長崎県立長崎明誠高等学校		授業担当者：橋本正信	教科書：長崎県の歴史散歩 (山川出版社)	
目 標	<p>1. 郷土の地理・歴史を知識として理解し、さらに体験として実感することから、現代との連続性を考察し、長崎県人としての自覚を促し、郷土への関心・愛情を育てる。</p> <p>2. 長崎県を全国的な視点から捉えることで、長崎の現状を認識し、長崎県人としてこれからどう行動すべきか考える力を養う。</p> <p>3. 本県の歴史を、東アジア史、世界史的視点から見ることで、日本史の中で果たした長崎の役割を再認識する。またそれぞれの地域にはそこに根差した豊かな歴史があることを理解する。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連
1. 長崎県の通史 (古代～近世)	16	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(※資料①)を用い、概略の説明にとどめ、細かいところには深入りしない。史実や史跡に関する説明・写真などは、教科書「長崎県の歴史散歩」を使用する。 「古代における中国・朝鮮半島との交流」「宇野御厨荘」「松浦党の成立」「出島とオランダ」「キリシタン史」「西海捕鯨」「岩崎弥太郎と三菱」「軍艦島(端島)」など、今後の見学や講演内容と関連があるもの、話題性のあるもの(世界遺産関連、坂本龍馬など)を指導の重点に置く。 長崎市中心の歴史にとどまらず、長崎県全体を見渡した指導を行う。特に古代・中世は五島・壱岐・対馬から日本の歴史が動いていったことを理解させる。 後に予定する長崎歴史文化博物館見学と関連する部分は、見学のポイントとして示す。 		<p>日本史A、世界史Aの内容と関連させる。</p> <p>定期考査、授業態度などを中心に評価をおこなう。</p>
2. 長崎県の地理	10	<ul style="list-style-type: none"> 地図上で長崎県の地理(郡市町村、河川・島・山)などを確認したうえで、地誌(交通・産業・人口・気候等)を押さえる。 		<p>地理Aとの関連</p> <p>評価は定期考査など</p>
3. 長崎歴史文化博物館研修	6	<ul style="list-style-type: none"> 単なる見学にとどまらせないために、以下の工夫をおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ①事前に目的・意義をよーく指導(資料②-a) ②ワークシート(※資料②-b)で見学のポイントを提示、事後提出させ評価する。 ③レポートおよび感想文(2時間) ④定期考査の試験範囲として出題(資料④) ⑤博物館までの交通手段・ルートを各自調査 		<p>評価は提出物(ワークシート、感想文)、研修態度など</p>
4. 特別講義① 「出前授業“龍馬が生きた時代”へタイムスリップ！」 講師：長崎歴史文化博物館研究員 深瀬公一郎氏	1	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を定着させるために、講義中のメモおよび感想文を提出させる。また講義内容を考査の試験範囲の中に入れる。 講義後の授業で、講義内容を整理し、長崎の通史との擦り合わせをおこなう。 		<p>評価は定期考査、受講態度、感想文など</p>

<p>5. 特別講義② 「石造物が語る向地・内海・外海の歴史（1時間）」 「向地・内海・外海のキリシタン史（1時間）」</p> <p>講師：長崎県文化スポーツ振興部（長崎歴史文化博物館） 大石一久 氏</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に希望する講演内容や生徒の実態などを講師に伝え、なるべく生徒の興味・関心を惹く内容になるようよくお願いをする。特に生徒の多く住む長崎市北部（滑石・畝刈・三重など）・長与町・時津町・琴海地区・西海市などに関する話題・歴史にも触れてもらう。 ・講義の内容を定着させるために、パワーポイントのスライドを配布。講義中のメモおよび感想文を提出させる。感想文は評価の対象とし、講義内容は次回考査の試験範囲の中に入れ、出題する。 ・同時間に開講されている日本史B、世界史Bの受講生徒にも参加を呼びかける（→全員参加）。 ・総合学科独自の取りくみとして、保護者や職員にも案内を行い、参加を呼びかける（資料③）。 	<p>評価は定期考査、受講態度、感想文など</p> <p>日本史B 世界史Bとの関連</p>
6. 長崎さるく①	3	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの課題として、長崎市または自分の住む地区近隣の史跡2か所以上を各自調査し、レポートとして提出させる。その際自分が行った証拠として、写真をレポートに貼付させる。レポートは評価の対象とする。 	評価は提出物
7. 長崎さるく② 「よーと知らなかった長崎」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の強い希望により、3月に講座全員（2年生10人）で長崎市中心部付近の史跡などを見学・研修をおこなう。ガイドは橋本がおこなう。通常、観光ガイドなどに載っていないような場所を案内し、長崎の奥深さを再認識させる。この際はレポートなどの提出は求めず、気軽に長崎の街を歩き、「さるく」を楽しませる。 	評価は態度など
8. 「長崎検定」へ向けて	12	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎に関する知識が身についたかどうかの指標として、長崎歴史文化観光検定を利用、長崎検定3級合格をめざす。「長崎歴史文化観光検定公式テキストブック」を利用する。 	評価は定期考査、授業態度など
評価 規 準	意欲・関心・態度	長崎県の歴史の展開に対する関心と問題意識を高く持ち、自ら意欲的に調査・研究をおこなうことによって、本県の歴史的位置づけおよび地理的特徴を主体的に理解している。	
	思考・判断	本県の歴史の展開を中心に産業や文化などを、現代との連続性を多面的・多角的視点から考察し、地域社会の特色について認識を深めることができる。また現代の長崎県の置かれている状況について客観的に把握することができる。	
	技能・表現	長崎県の歴史・文化・産業などに関する諸資料やデータなどから、有用な情報を選択・活用することを通じて、歴史的な事象を追及する方法を身に付け、考察した過程や結果を適切に表現する。	
	知識・理解	長崎県の歴史的展開・地理的特徴についての基本的な事柄を、日本および世界史的視野に立ち総合的に理解し、これらを今後の様々な場面において有効に活用できる知識にまで高めることができる。	

★観点ごとの到達度を図る方法として、①学習状況の観察 ②発表の態度・内容 ③小テスト ④提出物 ⑤定期テスト（※資料④）などを適宜組み合わせ総合的に評価し、最終的に点数化して評価をおこなうものとする。

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

1. 長崎歴史文化博物館における研修

(1) 生徒のワークシートより

郷土研究 WS

於 長崎歴史文化博物館

2 年 2 組 〇〇 番 氏名 〇〇〇〇

1. 博物館とは（概要・機能・役割など）

<p>博物館の主役は…「モノ」= 資料 モノを… 集める（収集） 未来に残す（保存） 調べる（調査研究） 見せる（展示） 伝える（教育）の5つが基本である。</p>	<p>《長崎歴史文化博物館》 2005年11月3日 開館 主に常設展示では、 ◎1500年代半ば～1600年代初め キリスト教伝来 と大まか→ 蘭教 ◎1600年代半～1860年代 オランダ・中国 ◎1850年代～1900年 日本の近代化に大きく 貢献 の3つにわけて展示している。</p>
---	---

2. バックヤードツアーの感想

カビが生えない工夫がされている文書収蔵庫、収蔵庫はとて大きく、多くの歴史や長崎に関するものが保存されておりすごかった。
 修復室では日常でも役に立つような化学のりと自然のりの違いなども教えていただき勉強になった。また、昔の人は最も良い方法（和紙と炭）で文書を残していきかあった。
 博物館は展示スペースの場所だけでなく、収蔵庫からの運び入れが最短でできるつくりになっていてすごいと思った。3500kgまで運べるエレベーターは印象に残った。

(2) 活動の様子



図1 オリエンテーション



図2 古文書修復見学



図3 バックヤードツアー



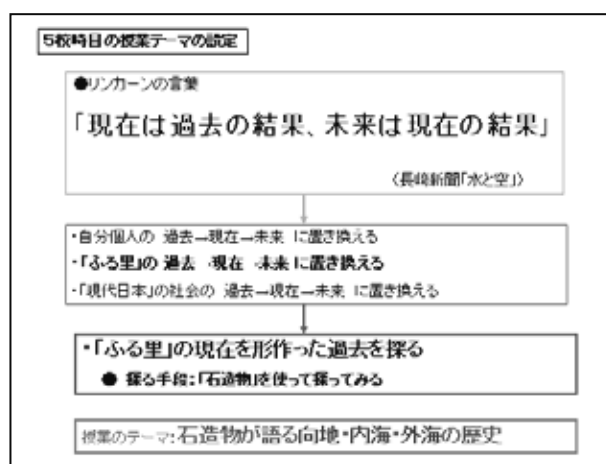
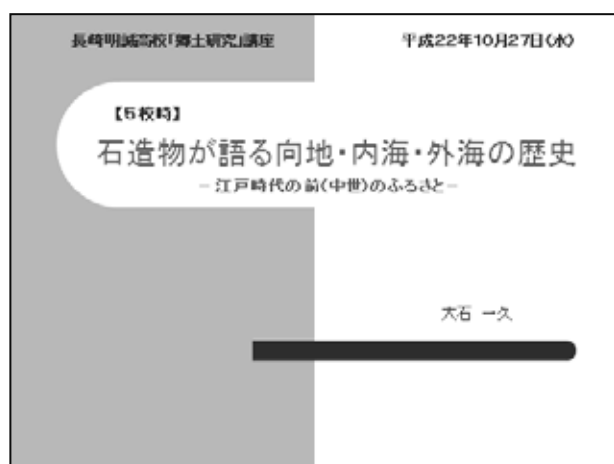
図4 常設展示室見学

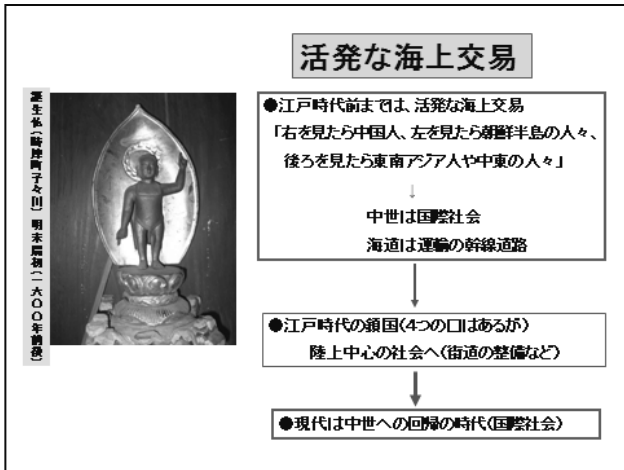
(3) 生徒の感想文より(抜粋)

- 岩崎弥太郎展では、写真も多く展示してあって、岩崎弥太郎がどんな顔をしていたのかわかって面白かったです。また、そういった写真を見て気づいたのが、どの写真にも多くの確率で外国人が写っているということです。当時、長崎は中国やオランダとの交流があったことは知っていましたが、日本人と外国人と一緒に働いているとは全く想像しませんでした。出島や唐人屋敷はありますが、たんに外国人を「異国から来た人」と思うのではなく、お互いにあらゆる面で支え合うことの大切さを、岩崎弥太郎は三菱などを通し当時からたくさんの人に伝えていたのかなあとと思うと、本当にすごいと思います。
- 今回の長崎歴史文化博物館の見学で博物館に対するイメージが大きく変わりました。そして歴史・長崎について今以上に興味を持つことができました。とても海外との貿易が盛んだった長崎。いろんな長崎を発見することができ、長崎をより好きになりました。見学により自分の視野を広げることができたと思います。
- まず最初に驚いたのは書庫の設備の厳重さです。厚手のドアや温度、湿度の調整、電子式の本棚など力が入った設備で、中の資料がどれだけ貴重なものかということが、ひしひしと伝わってきました。このような設備があるから未来にちゃんと残しておくことができるんだと思いました。この何百年前からの歴史の足跡を私たちで止めないように、自分たちも未来に残すということをちゃんと考えていかないといけないと思いました。
- 「学芸員」の方から教えてもらうことは何もかも新鮮でとても楽しかったです。長崎に城がない理由などあまり深く考えたことがありませんでした。幕府直轄の奉行所があったことを知り、なるほどと思いました。修復室は私が一番見てみたかった所なので、入れて嬉しかったです。すごくボロボロの書物をどうやって修復されるのか興味があったからです。泥水でペカペカのものや、虫に食われてボロボロなものたくさんありましたが、修復する人は慣れた手つきで修復していたので、やはりプロはすごいなと思いました。裏側から紙をはる作業もきっと私だったら、失敗してしまうんだろうなと思いました。見学できて良かったです。
- 生まれた地が長崎で18年間も過ごしてきたため、歴史には全くと言っていいほど興味がありませんでした。しかし、高校3年生で郷土研究の授業を受け、少しずつ長崎の歴史にも興味が出てきました。そこで講師の方が龍馬伝についての説明をしに来てくださって、真剣に楽しみながら聴きました。話を聞くだけしかなかったのが、今回の歴史博物館に実際にいくということは非常に嬉しかったです。中が広がったので疲れるだろうと思っていたにもかかわらず、学芸員の方の説明を聞きながら現物を見てまわっていると疲れを感じるどころか、時間も忘れて先生に迎えに来てもらっていました。
- 私が内定をいただいている三菱重工長崎造船所のことがとても詳しく書かれていた。私はこの見学を通して、三菱重工の歴史や岩崎弥太郎が大隈重信と関係が深かったということも、改めて学び、とても良い見学となりました。長崎の歴史はとても深く、これからも長崎に住んでいく私にとって学ばなければならなかったことですし、長崎の歴史を知ることによって本当に良かったです。これから卒業して、長崎のことを誰かから聞かれたときは、胸をはって答えられる自信ができました。

2. 特別講義② 講師：大石一久 氏

(1) 「石造物が語る向地・内海・外海の歴史」パワーポイント・スライド抜粋





長崎県下の中世・石造物

●使用石材・塔形態・様式から3グループに分類

- ・第1グループ…緑泥片岩製(滑石・蛇紋岩も含む)
西彼半島産
- 第2グループ…佐賀型
安山岩を主体に凝灰岩・玄武岩等も含む
- 第3グループ…中央形式塔
安山岩質凝灰岩製・花崗岩製

(2)「向地・内海・外海のキリシタン史」パワーポイント・スライド抜粋

長崎明誠高校 6校時目
平成22年10月27日(水)

内海・外海・向地のキリシタン史

聖骨箱(里崎)

岩伏キリシタンの墓碑

過去に「旅」するための大事な心構え

・今生きている現代という時代が、特別で最高の時代という考えを棄てること。
「モノをみつめる感性は、むしろ過去の人類が優れている」

かつての人々:「無標物でさえも有標物ととらえることができる豊かな感性」

【例】「生きている石」

- ・生月「保食(ウケモチ)神社」の御神体など
- ・「君が代」の「さざれ石のみまとなりて」

※現代人:単なる「踏傍の石」

保食神社祈禱守護

現代人:ときに「有標物でさえも無標物と見えてしまう萎縮した感性」

【例】「動かなくなったカブトムシ」

●キリスト教のもつ一神教としての排他性 →日本の伝統的神仏信仰を破壊

政治的にも宗教的にも直接(もろ)に西欧とぶつかった時代(遠藤周作)

岩戸山(南島原市加津佐町)

洞窟内

長与とキリシタン

【長与村】 179基 (破壊・発掘数 162基 築直し 17基)

墓所名	長	墓数	墓所名	長	墓数
中尾墓所	1	1基	さしき墓所	7	7基
古寺墓所	2	2基	さいたう墓所	8	8基
峯墓所	1	1基	長福寺墓所	3	7基
すわ墓所	1	3基	出口墓所	2	3基
市井平墓所	2	2基	辻墓所	8	8基
井ノ上墓所	1	1基	くこうや墓所	2	2基
そうその墓所	2	2基	のとり墓所	2	2基
はさこ墓所	4	4基	そのた墓所	2	2基
峯ノ上墓所	1	1基	えんのふ寺墓所	1	1基
よしむた墓所	4	4基	すみのその墓所	3	3基
す崎ノ墓所	1	1基	峯の尾墓所	1	1基
白ひげ墓所	1	5基	大こへ墓所	1	1基
戸別当墓所	1	1基	こは墓所	6	6基



(3) 生徒の感想文より (抜粋)

- 今住んでいる「西海」が1600年代の地図に出ていたことを聞いてとても驚きました。「西海」は旧琴海町西海郷で、「郷」という地名がつくと大村藩領であったことや、今の佐世保～針尾くらいまで平戸藩領で、江戸時代の六藩五領一天領だったことを知ることができました。
- キリシタン時代は1) 救いの宗教、2) 南蛮貿易や南蛮貿易の手先となって動く活動家という2つの側面がり、どちらかを見るかによって印象が変わるために、ちゃんと2つの側面を見るが必要だと先生はおっしゃっていました。この言葉は歴史を見るときだけではなく、日常生活においても言えることだと思いました。
- 大石さんが最後に話した「歴史学の本領は、行動の意義を評価すること以上に行動の意味を理解すること」というのは、とても感動しました。今回のキリシタンの話でも良いのか悪いのか考えていきたいと思います。
- 今回の話で一番印象に残っている話は「キリスト教の2つの顔」についてです。私は今までキリスト教は人々を救うために良いことをしてきたのだと思っていました。しかし、一方では仏像や寺を焼き払ったりするなど幕府が行った弾圧に近いことをしていたのだろ知り、驚きました。また、新しい歴史を知ることができ、自分の知っている歴史はほんの一部なのだ実感しました。大石先生のいうように「現代人が一番えらい」という先入観なしに客観的に歴史を見ることがとても大切なのだと実感しました。
- 今日の講座を聞いて私は歴史は深いなあと思いました。石造物だけでもさまざまな形や意味があり、その当時の背景を考慮することができる大切な時代の足跡だと思いました。この足跡があるからこそ、今の自分たちの時代があるのだと、授業の最初に聞いたリンカーンの言葉「現在は過去の結果、未来は現在の結果」の意味がすごくよくわかりました。キリシタン時代について、授業で少し学んでいたもので、すごく興味がありました。以外にもわりと近いところや知っているところに、キリシタン関係の碑やお墓があり、びっくりしました。まさか長与にあんなにキリシタンのお墓があることにとてもびっくりしました。かつての人々の「無機物さえも有機物ととらえる豊かな感性」を今私たちは未来のために学ばなければならないな、と思いました。
- 私の地元である長与が先生が口にされるたびに、私は長与に16年も住んで育ってきたのに、こういったキリシタンのことについて全く知らなかったことを恥ずかしく思いました。このことについて講話を聞いて個人的に興味をもったことが何点かあるので、個人的に調べようと思います。

3. 「郷土研究」講座に対しての生徒の感想 (抜粋)

- 正直最初のほうは長崎のことについて調べるのはつまらないと感じていました。しかし、プリントや郷土学の教科書を見ていく中で、日本一や世界一が意外と多いなと感じたり、知らなかった歴史や建造物を知ること興味を持つようになりました。初めて行った長崎歴史文化博物館では自分が持っていた博物館のイメージを変えるなど楽しく学ぶことができよかったです。冬休みに行ったさくらでは、小学生・中学生で見学した時とは違う考えを持つことができるなど、実際に行ってみないと分からないと感じることができ勉強になりました。自分が学習した知識を家族や友達に教えていきたいです。自分の郷土をより好きになることができよかったです。
- 今まで長崎にずっと住んできたけど、長崎の知らないところがたくさんありました。受講していくうちに、初めて知ったり、興味を持てたりと、自分の知識が広まりました。長崎歴史文化博物館へ行ったことはとても勉強になりました。展示されている物を見ても勉強になったけど、博物館の学芸員さんの話や、裏側を見てとても心に残りました。
- 特に印象に残っているのが一度だけ校外に出た博物館へ行った事です。貴重な資料やそして弥太郎展も見ることができました。実際に裏でも細かな作業を行ってくれている人がいるから、綺麗な形のまま、展示も見れるんだなあと思いましたが、今はそれ以上に、自分が卒業し、もし県外に出た時、長崎の良いところを伝えていき、また他の場所から見た長崎のイメージというのを感じてみたいと思いました。将来へつながる講座で受講してよかったと思いました。
- 元々歴史が好きなので、博物館のバックヤードや岩崎弥太郎展は、すごく楽しく学ぶことができました。この郷土研究で長崎に興味を持った私は3年生の課題研究で「オリジナル長崎ガイドブック」を作ろうかと考えています。郷土研究をとったおかげで、自分に興味のあるものが増えて良かったなと思いました。
- 稲佐山が東京タワーと一緒に高さというところにとっても驚きました。

4. 生徒による「さるくレポート」

郷土研究レポート（長崎さるく）

1.



★平和公園

松山市のバス停でバスを降り、歩いて2~3分のところに平和公園があります。ここには、北村西望によってつくられた平和祈念像はもちろん、他にも平和を象徴するモニュメントが数多くあります。平和祈念像の、垂直に伸ばした右は原爆の恐ろしさ、水平にのびた左手は平和を表しています。横には足は原爆投下直後の長崎市の静けさで、立たした足は右と同じく原爆の恐ろしさ、とて無下目は原爆の犠牲者のための冥福を祈っています。像の高さは9.7メートルと、近くで見るととても迫りがあります。被爆70周年にあたる、1955年8月8日に完成し、その制作費はあまご国内外からの募金により集まった、3000万円だそうです。

★平和公園のある松山市は爆心地であるためか、平和に関する施設や遺跡が多かったように思いました。少い所ですが如己堂や水井隆記念館、浦上天主堂、山王神社、原爆資料館などがありません。

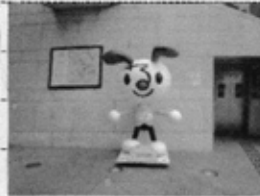


↑如己堂と浦上天主堂

平和公園を出て、原爆資料館に行く途中に寄りました。如己堂は子堂いながらの、とても狭かったです。



2.



原爆資料館

平和公園から歩いて、如己堂・浦上天主堂に行った後、裏側(?)の方から入りました。入口のところに、さるく(?)がいて、長崎さるくのスタート地点になっているそうです。

★1945年8月9日

最初にあつたのが、被爆前の長崎のパン屋などの展示ブースでした。よく、原爆が落とされた後の焼け野原にいた長崎の写真を見ながら、それと比べると、とても悲しい気持ちになります。また、7時2分を止めておいた時計も展示されていました。



★原爆による被害の実相

このブースが一番じれに残っています。原爆が落とされたことによる、街や、人体や、道具などへの被害が分かりやすく説明されています。

★核兵器のない世界を目指して

最後に、核兵器についての展示ブースを見ました。右の写真は分りにくいですが、核保有国と、その個数を表しています。今、多くの国が核を所持していますが、どの国も核を所有せず、世界中が平和になればいいなと思います。



※1月12日（水）の授業で提出すること（第4回考査の評価に入れます）。

2年 3組 番 氏名

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

1. 本年度の活動について

前任者の後を受けて郷土研究を担当することになったのだが、前任者と同じやり方で授業をすることはできないので、私のできる範囲のことを考えた。実際は自転車操業で「やりながら考える」ので、綿密に計画的な授業とは言い難いものであった。その中でも私が授業のねらいとしてずっと心においたのは「郷土長崎に自信と誇り」を持たせることであった。「長崎に生まれてよかった」「長崎は思ってたよりずっとすごいところなんだ」と思ってほしいという思いで、毎回の授業にのぞんだ。生徒の感想文を読むと、ある程度当初の目的には到達し、おおむねその思いは伝わったのではないと思う。この生徒たちが卒業後、県外に出たとき“長崎の宣伝マン”になってくれたら、理想的である。

2. 苦労した点

歴史や地理の授業でも同じであるが、生徒が見たことも聞いたこともない、遺跡や史跡の様子を具体的にどのように伝えるか…もっとも苦労した。特に自分が訪れたことのない史跡は、教科書を参照させたとしても、いまひとつピンとこない。そういう点ではもっと自分の研修を深めないといけない。また映像資料などを積極的に利用したいが、長崎の遺跡や史跡を系統的・地域的に編集した映像資料は今のところ見当たらない。そういう意味で長崎歴史文化博物館を訪れたことは、その点を十分に補って余りある体験になったと思う。また生徒に実際に長崎をさるかせたいと思っても、本校は地理的に長崎市内中心部まで1時間はかかる場所にあり、費用・時間の面で難しい。

3. 改善点

今年度の実践を反省し、年間カリキュラムをきちんと組み立て、計画的に授業をおこなうこと。特に生徒の外での活動をもっと増やしたい。さらに欲を言えば、長崎の文学や方言は国語科、長崎の生物や地質は理科、郷土料理は家庭科に受け持ってもらえるような教科をまたがる授業にしたいが、授業時間などの面で実現は難しい。今年度研修に参加したり、個人的に訪れた「軍艦島」「島原ジオパーク」「平戸（根獅子）」「壱岐（原の辻遺跡・一支国博物館）」「川平金山」などの情報を授業に積極的にいかし、生徒にしっかりと還元していきたい。またそれぞれの単元でワークシートおよび指導案を整理し、私以外の誰もがができるような授業にしておくことも後々のことを考えると大事なことだと思う。

★主な参考文献（授業やワークシート制作で参考にしたもの。ほとんどが簡単に入手できます。）★

- ・長崎県の歴史散歩（山川出版社 2005）…教科書（107条本）として使用
- ・長崎県の歴史（山川出版社 1998）
- ・長崎歴史文化観光検定 公式ガイドブック（長崎商工会議所 2009）
- ・旅する長崎学1～14（長崎文献社 2006～2010）
- ・長崎さるくマップブック 平成22年度版（長崎観光コンベンション協会 2010）
- ・図説長崎県の歴史：外山幹夫（河出書房新社1996）
- ・長崎を知る77のキーワード：ナガサキバイデザインセンター（講談社 2010）
- ・長崎学への道案内（長崎文献社 2009）
- ・復元！江戸時代の長崎：布袋厚（長崎文献社 2009）
- ・長崎惣町復元図（長崎文献社 2009）
- ・享和二年肥州長崎図（長崎文献社2004）
- ・長崎石物語：布袋厚（長崎文献社 2005）
- ・長崎の史跡（街道）（長崎歴史文化博物館 2007）
- ・長崎遊学4 軍艦島は生きている！（長崎文献社 2010）
- ・長崎「電車」が走る今昔：田栗優一（JTB 2005）
- ・街道をゆく13 壱岐・対馬の道：司馬遼太郎（朝日新聞出版 2008）
- ・復活の島 五島・久賀島キリスト教墓碑調査報告書（長崎文献社2007）
- ・琴海町史（琴海町教育委員会 1991）
- ・玄界灘の島々 海と列島文化第3巻：宮田登ほか（小学館1990）
- ・東シナ海と西海文化 海と列島文化第4巻：網野善彦ほか（小学館1992）
- ・クアトロ・ラガッツィ 天正少年使節と世界帝国：若桑みどり（綜合社 2003）
- ・千々石ミゲルの墓石発見：大石一久（長崎文献社 2005）
- ・小値賀島周辺海域及び前方湾海底遺跡調査報告書（小値賀町教育委員会 2007）
- ・岩崎彌太郎～三菱の誕生と岩崎家ゆかりのコレクション～（長崎歴史文化博物館 2010）
- ・西海捕鯨業史の研究：鳥巢京一（九州大学出版会1993）
- ・カクレキリシタンの信仰世界：宮崎賢太郎（東京大学出版会 1996）
- ・カクレキリシタン オラショ 一魂の通奏低音：宮崎賢太郎（長崎新聞社 2004）

2. 3 年生 (選択科目)	教科：総合	科目：「郷土研究」講座	通年実施	70時間(予定) ※週2時間実施
実践校：長崎県立長崎明誠高等学校		授業担当者：橋本正信	教科書：長崎県の歴史散歩 (山川出版社)	
目 標	<p>1. 郷土の地理・歴史を知識として理解し、さらに体験として実感することから、現代との連続性を考察し、長崎県人としての自覚を促し、郷土への関心・愛情を育てる。</p> <p>2. 長崎県を全国的な視点から捉えることで、長崎の現状を認識し、長崎県人としてこれからどう行動すべきか考える力を養う。</p> <p>3. 本県の歴史を、東アジア史、世界史的視点から見ることで、日本史の中で果たした長崎の役割を再認識する。またそれぞれの地域にはそこに根差した豊かな歴史があることを理解する。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
<p>1. 長崎県の通史 (古代～近世)</p> <p>2. 長崎県の地理</p> <p>3. 長崎歴史文化博物館研修 (平成23年11月9日)</p> <p>5. 特別講義 (平成23年10月26日) 「世界地図に文明国・日本を描かせた少年たち—天正遣欧使節とその意義—(1時間)」 「内海・外海・向地のキリシタン史(1時間)」</p>	<p>通年</p> <p>10</p> <p>6</p> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(資料1)を用い、概略の説明にとどめ、細かいところには深入りしない。史実や史跡に関する説明・写真などは、教科書「長崎県の歴史散歩」を使用する。 ・「古代における中国・朝鮮半島との交流」「宇野御厨荘」「松浦党の成立」「出島とオランダ」「キリシタン史」「西海捕鯨」「華僑と唐人屋敷」「軍艦島(端島)」など、今後の見学や講演内容と関連があるもの、話題性のあるもの(世界遺産関連、孫文と梅屋庄吉)を指導の重点に置く。 ・長崎市中心の歴史にとどまらず、長崎県全体を見渡した指導を行う。特に古代・中世は五島・壱岐・対馬から日本の歴史が動いていったことを理解させる。 ・後に予定する長崎歴史文化博物館見学と関連する部分は、見学のポイントとして示す。 ・地図上で長崎県の地理(郡市町村、河川・島・山)などを確認したうえで、地誌(交通・産業・人口・気候等)を押さえる。 ・単なる見学にとどまらせないために、以下の工夫をおこなう。 <ul style="list-style-type: none"> ①事前に目的・意義をよく指導 ②ワークシート(資料2)で見学のポイントを提示、事後提出させ評価する。 ③レポートおよび感想文(2時間) ④定期考査の試験範囲として出題(資料3) ⑤博物館までの交通手段・ルートを各自調査 ・事前に希望する講演内容や生徒の実態などを講師に伝え、なるべく生徒の興味・関心を惹く内容になるよう依頼する。特に生徒の多く住む長崎市北部(滑石・畝刈・三重など)・長与町・時津町・琴海地区・西海市などに関する話題・歴史にも触れてもらう。 	<p>日本史A、世界史Aの内容と関連させる。</p> <p>定期考査、授業態度などを中心に評価をおこなう。</p> <p>地理Aとの関連 評価は定期考査など</p> <p>評価は提出物(ワークシート、感想文)、研修態度など</p> <p>評価は定期考査、受講態度、感想文など</p> <p>日本史B 世界史Bとの関連</p>	

<p>講師：長崎歴史文化博物館 研究グループ リーダー 大石 一久氏</p> <p>6. 校外学習「長崎さるく①」 平成23年7月13日</p> <p>校外学習「長崎さるく②」 平成23年2月15日</p> <p>8. 「長崎歴史文化観光検定3級合格」へ向けて</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容を定着させるために、パワーポイントのスライドを配布。講義中のメモおよび感想文を提出させる。感想文は評価の対象とし、講義内容は次回考査の試験範囲の中に入れ、出題する。 ・同時間に開講されている日本史B、世界史Bの受講生徒にも参加を呼びかける。 ・総合学科独自の取りくみとして、保護者や職員にも案内を行い、参加を呼びかける。 <p>『東山手の異国散歩』 オランダ坂（切り通し）～活水学院～東山手甲十三番館～三角の溝・居留地境石など～東山手洋風住宅群～孔子廟</p> <p>『出島と唐人屋敷』（資料4） 旧長崎港線跡～大波止の鉄玉～県庁下の石垣～新地中華街～広馬場～館内唐人屋敷跡</p> <p>長崎市中心部付近の史跡などを見学・研修を2度おこなう。通常、観光ガイドなどに載っていないような場所を含めて案内し、長崎の奥深さを再認識させる。後にレポートの提出を求め評価をするが、気軽に長崎の街を歩き、「さるく」を楽しむことを優先する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎に関する知識が身についたかどうかの指標として、長崎商工会議所主催「長崎歴史文化観光検定」を利用、長崎検定3級合格をめざす（平成24年1月29日長崎大学にて受験）。「長崎歴史文化観光検定公式テキストブック」を毎回の授業で利用、問題を定期考査に含む（資料3） <p>長崎商工会議所の協力を仰ぎ、連携することで授業料など配慮していただいた。</p>	<p>評価は提出物（レポート）</p> <p>評価は定期考査、授業態度など</p>
<p>評価 規 準</p>	<p>意欲・関心・態度</p> <p>思考・判断</p> <p>技能・表現</p> <p>知識・理解</p>	<p>長崎県の歴史の展開に対する関心と問題意識を高く持ち、自ら意欲的に調査・研究をおこなうことによって、本県の歴史的位置づけおよび地理的特徴を主体的に理解している。</p> <p>本県の歴史の展開を中心に産業や文化などを、現代との連続性を多面的・多角的視点から考察し、地域社会の特色について認識を深めることができる。また現代の長崎県の置かれている状況について客観的に把握することができる。</p> <p>長崎県の歴史・文化・産業などに関する諸資料やデータなどから、有用な情報を選択・活用することを通じて、歴史的事象を追及する方法を身に付け、考察した過程や結果を適切に表現する。</p> <p>長崎県の歴史的展開・地理的特徴についての基本的な事柄を、日本および世界史的視野に立ち総合的に理解し、これらを今後の様々な場面において有効に活用できる知識にまで高めることができる。</p>	

★観点ごとの到達度を図る方法として、①学習状況の観察 ②発表の態度・内容 ③小テスト ④提出物 ⑤定期テストなどを適宜組み合わせ総合的に評価し、最終的に点数化して評価をおこなうものとする。

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

1. 長崎歴史文化博物館における研修

(1) 活動の様子



図1 オリエンテーション



図2 古文書修復見学



図3 バックヤードツアー（収蔵庫）



図4 バックヤードツアー（トラックヤード）



図5 バックヤードツアー（書庫）



図6 常設展示見学

(2) 生徒の感想（抜粋）

- 私が長崎歴史文化博物館を見学して思ったことは、博物館という建物は、ただ人に資料を見せるわけではないということです。ただ人に資料を見せるだけではないんだと思いました。ただ資料を見せるだけだったら、「すごい」と思っただけで、記憶には残りにくいと思います。ただ見せるだけでなく、職員がお客さんに伝えるという行動がとても大切なことだと思いました。またお客さんに満足してもらえるように見えないところまで工夫がされているんだと思いました。完璧な資料を見てもらうために決まった温度・湿度で保管をして、虫に食べられたところを復元したりいろいろな役割を一人ひとりが責任感を持って仕事をしているので、こんな立派な博物館が出来るんだと思いました。私も将来働くようになったら、自分の仕事に責任を持ち、お客さんに満足していただけるように一生懸命頑張って働こうと思います。

- 長崎歴史文化博物館を見学して感じたことは、資料の一つひとつに対する思いです。虫くい、かびがある書物は修理し、展示する資料は破損から守るため、展示する前に、一定の温・湿度で慣らします。私たちがふだん博物館で見ていた資料も、このような過程を経ているんだと考えたら、とてもびっくりしました。たくさんの資料を見せていただき、当時の長崎についてたくさん知ることができました。これがきっかけでもっと長崎について知りたいと思うようになりました。ふだん絶対体験することができないようなことができ、とても楽しかったです。今後も長崎の歴史や文化についての知識を高めていきたいです。
- 特に印象に残っているのは修復室で見た光景です。一人で傷んだ資料を修復していることに驚きました。今、こうやって私たちが楽しく見学ができるのは、この方の存在があるからこそ、と思いました。見ていて言葉ができませんでした。熟練の技だと思いました。博物館の主役である「モノ」や資料はとても活躍していたと思います。

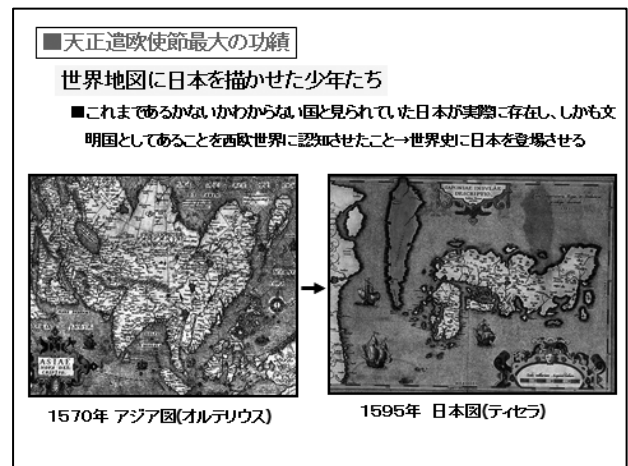
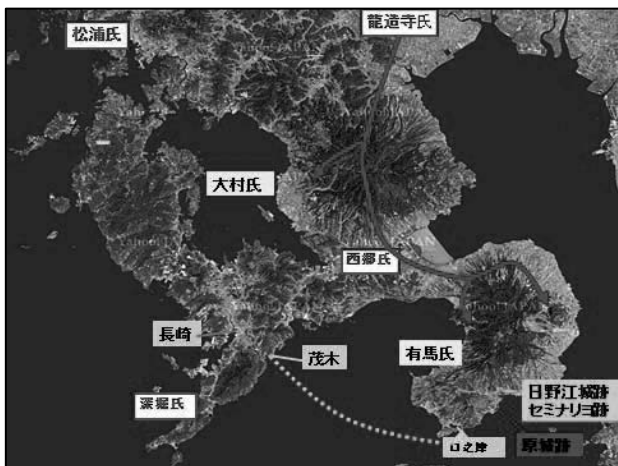
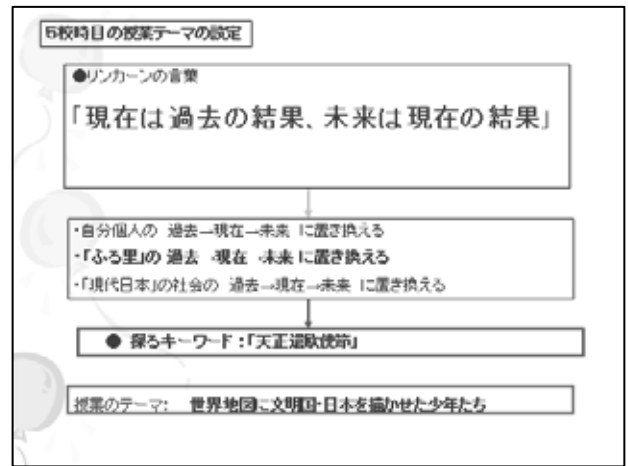
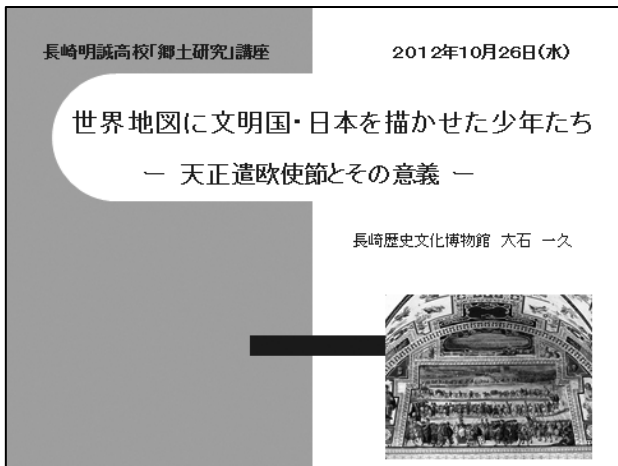
2. 長崎歴史文化博物館・大石一久氏による特別講義

(1) 本校視聴覚教室における講義のようす

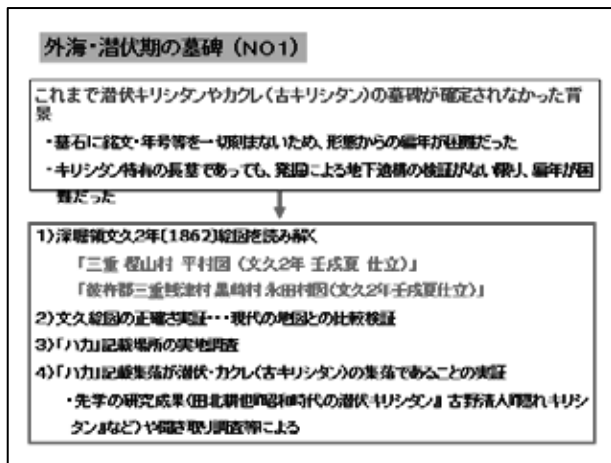
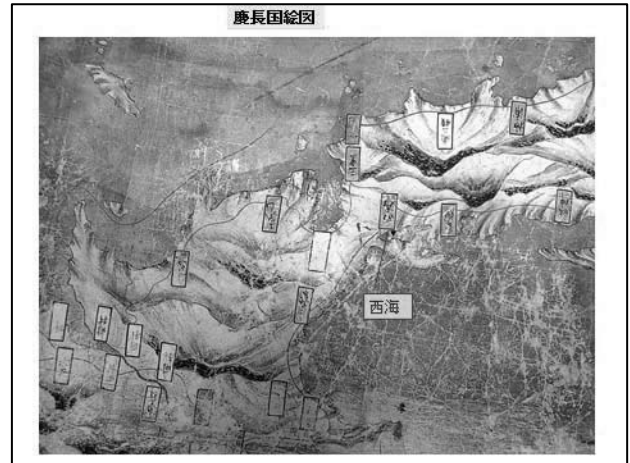


(2) 講義の内容

講義①「世界地図に文明国・日本を描かせた少年たち—天正遣欧使節とその意義—」よりスライド抜粋



講義②「内海・外海・向地のキリシタン史」よりスライド抜粋



(3) 生徒の感想

- 今回の講話を通じて一番驚いたのは、今私が住んでいる長与町にはキリシタンの長墓が179基もあったということです。昔は長与町にも多くのキリシタンが住んでいたということは全く知らなかったのので、これから長与町のキリシタンについて調べていき、どのようなことが起こっていたのか、できるかぎり知りたいと思います。
- 「現在は過去の結果、未来は現在の結果」という言葉が最初の方に出てきたのですが、非常に共感できました。「歴史を勉強することにおいて、何も堅苦しいことはかんがえなくていい」との発言に非常に説得力を感じ、この言葉の意味を理解することができました。一度郷土研究の授業で習ったこととかぶるところもありましたが、授業よりも詳しい解説もあつたりして、非常によくわかりました。
- 今私たちが、世界史について勉強するとき大事なのは、これが悪い・良いとかではなく、なぜこの人がこういう行動をとったのかということを考えるのが大事だと教えていただきました。私は暗記などが苦手で、日本史を勉強したときも、しっかり覚えることができませんでした。しかし、この長崎に生まれて、長崎で生きていく私たちには、長崎の深い歴史について知っておいた方がいいと思いました。
- TVや教科書も「長崎」をとりあげた時は必ず出島だから、その他の些細なことでも歴史を知ることができて、面白かったです。自分が住んでいる大瀬戸だと歴史ってホグットぐらいだから、長崎市内に行ったときに周りを注意しながら歩きたいと思います。もしかしたら気付かなかっただけで、歩いている道に、ちょっと何かあつたりとか考えると意識の違いだけで、景色がちょっと違って見えるように感じるんじゃないかと思いました。
- ローマから帰ってきた4人(天正遣欧使節)はそれぞれの道に進んでいく。その中で千々石ミゲルはキリスト教を捨ててしまう。しかしその頃はキリスト教の最盛期で決して辞めるタイミングではなかったそう。そんな中、棄教した千々石ミゲルのことを大石先生はこう言っていた。「今まではイエズス会だけに任されていたキリスト教の布教が、ドミニコ会などの他の会派にもできるようになった。そこから会派間どうしの対立が起き、それらの対立を悲観するために千々石ミゲルはキリスト教を棄教した」と言っておられた。千々石ミゲルは自分が愛したキリスト教、イエズス会を元に戻すために棄教したのだと思う。もしも対立に目を背けていれば、千々石ミゲルはキリスト教の英雄のままだったろうなと思う。でもその名誉を捨ててまでキリスト教を元に戻そうとした千々石ミゲルは本当に凄いなと思う。それだけ千々石ミゲルはキリスト教を愛していたんだなと思った。

3. 校外学習

第1回「東山手の異国散歩」



三角溝



どんど坂



活水学院



孔子廟

第2回「出島と唐人屋敷」



旧長崎港線（元船遊歩道）



出島



新地中華街で肉まん



唐人屋敷

4. 郷土研究講座の1年間を通じての感想（生徒）

- 郷土研究を1年間受講して、長崎にはとても多くの歴史や出来事があるのを知り、驚くばかりでした。私が一番印象に残ったのは校外学習です。1回目は、長崎さるくのルートを基に見学していきました。東山手の住宅や孔子廟などを見学していき、とても貴重な経験をすることができました。2回目は長崎歴史文化博物館に行きました。この時、私は訪れるのが初めてだったので、一体どんなところだろうと期待で胸がいっぱいでした。実際に入って、博物館のスタッフの方の話を聞いたり、多くの展示されている資料を見て、とてもすごいなと思いました。学校に来て長崎の歴史について話をしてくれた大石一久さんの話も、とても印象に残りました。今後も長崎の歴史について、注目していきたいです。
- 私はこの授業を受講するまで長崎のことを全く知りませんでした。しかし、長崎の歴史は知れば知るほど興味をひかれるような出来事ばかりでとても楽しかったです。また身近にも長崎の歴史が残っているとは知らなかったのも、知ったときはとても感動しました。しかし、また私は長崎の歴史をまだ知らないのも、これからは長崎の歴史に興味を持ち、個人的にも調べていきたいと思います。
- この郷土研究という授業を通して、今まで長崎のことについて深い興味はなかったのですが、この授業のおかげで長崎のことについてたくさんを知れたし、興味を持つようになりました。また先生の話がとてもおもしろくてすごくわかりやすい授業でとても楽しかったです。長崎歴史文化博物館に行ったりもしてとてもいい経験になりました。この授業のおかげで将来長崎の良さを伝えられる人になりたいと思うようになりました。
- 最初は長崎県の地図を覚えるところからはじまりましたが、全然場所の名前がわからなくて明誠高校の場所も示すことができませんでした。今は車で佐世保のところを通ったときにこの場所はこの辺だとわかるようになりました。また校外学習では普段絶対行かないような場所にも行きました。この授業を選択していなかったら、ずっと行くことがなかったと思うので良い機会になりました。これで最後の授業になりますが、この授業で長崎のことを勉強できて、やっぱり長崎がいいなと思いました。
- 郷土研究を1年間受講して、長崎のことを以前より知ることができて、とても良かったです。習うまでは知らなかったこととして、興味はあったけど覚える機会に恵まれなかったことに、長崎県の自治体の名称とその位置があげられます。校外学習に参加したことにより、普段の授業だけではどうしても身に付けられない知識を得ることができてよかったです。普段は行かないような場所に行けたり、日常では経験できないことを経験できたということについても良かったなと思います。また長崎歴史文化観光検定を受けたりもしましたが、受検を意外にも楽しいと思うことが出来たのが我ながら驚きでした。
- 郷土研究の授業はとても興味深く集中して受けることができました。郷土研究の講座はD1群にとりたい科目がなくなんとなくとった科目だったので、どうでもいいと思っていました。しかし実際に授業を受けてみると、長崎のことが好きになってしまうほど長崎のことについて知ることができました。先生の話も面白い話ばかりで、あまり眠ることなく授業に集中することができました。今思えば1年生のときにD1群に郷土研究を入れてよかったと思います。
- 私は歴史には興味がなかったけれど、時間割を作成するときに郷土研究の授業を受けてみようと思いました。理由は1年生のときの担任に校外学習があると聞いていたからです。2年生になって授業を受けてみると、難しい内容が多かったです。私はもともと歴史が苦手なので難しいと感じたのだと思います。テストの点数もなかなかとれなかったです。でも先生の授業は楽しかったです。すごく笑っていたような気がします。校外学習では一番初めにいった夏の校外学習が一番印象に残っています。次の回に行った長崎歴史文化博物館は感動しました。たくさんの資料が今でも残っていました。資料の量は本当にすごかったです。
- 私はこの郷土研究の授業でたくさんのことを学びました、そして感じたことは、私は長崎に住んでいるのに知らないことがたくさんあるんだということです。私は山里小学校を卒業しました。山里小は長崎の文化や平和に関する学習が多かったし、通学路には観光で有名な場所もたくさんあります。そのため私は長崎について知っているつもりでいました。この講座では、長崎の歴史はもちろん今の長崎についても学びました。はじめのころには難しくついていけない部分もありました。だけど今は昔に比べて知識も増え、楽しみながら学ぶことができています。授業だけでなく実際に校外に出て、直接自分の目で見ることによって、考え方も大きく変わりました。これで授業は終わりますが、もっと長崎について知りたいと思います。そして長崎を訪れる観光客の方にもたくさん長崎の良さを知ってもらいたいです。
- 私が一番印象に残っている校外学習は長崎歴史文化博物館の裏側に入れたことです。そこで目の当たりにした長崎の歴史はどれも凄いものばかりで、長崎の歴史をもっと深く学んでみたいと思うようになりました。この長崎の歴史はずっと受け継いでいかなければならないな、と強く思いました。もし将来私に子どもができた時に、まずは子どもに「長崎ではこんなことがあったんだよ」ということを、教えられたらいいなと思います。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

1. 平成23年度の活動について（昨年度の取り組みについては資料5参照）

昨年度に引き続き、郷土研究講座において長崎歴史文化博物館の協力を仰ぎ、博物館を訪れ研修をしたり、講師として大石先生をお招きし特別講義が実施できた。やはり長崎歴史文化博物館との連携抜きでは、お世辞ではなくこの講座は成立しなかったと言える。これは生徒の年間を通じての本講座に対する感想の中に、長崎歴史文化博物館を訪れたことが一番印象に残ったと書いた生徒が多かったことから、はっきり見てとれる。今後も博物館との連携はできる限り続けさせてもらえれば有り難いと思う。その上で、これからさらに「校外学習」「長崎県の通史」「長崎検定」などの授業コンテンツが長崎歴史文化博物館を核として有機的に結びつき、お互いを補完していくようになれば理想的と考える。そういう授業を構築することが今後の私の課題である。また来年度は立体地図を利用した授業を考えている。

私がこの授業のねらいとして心においたのは、知識を詰め込むのではなく「郷土長崎に自信と誇り」を持たせることであった。「長崎が大好き」「長崎に生まれてよかった」「長崎は思ってたよりずっとすごいところなんだ」と思っほしいという思いで、毎回の授業にのぞんだ。生徒の感想文を読むと、ある程度当初の目的には到達し、おおむねその思いは伝わったのではないかと思う。この生徒たちが今後、県内外で“長崎の宣伝マン”になってくれたら、これほど嬉しいことはない。生徒の感想を読んで、ほっとすると同時にこの講座を担当して本当によかったと思う。

2. 苦勞した点

まずは堅苦しくなく楽しい授業の雰囲気をつくるのが大切であった。本講座は必ずしも積極的な理由で選択した生徒ばかりではないので、最初からとばしすぎると脱落者を出す危険もある。そこで分りやすく楽しい授業をこころがけたが、その中でネックになるのは、生徒が見たことも聞いたこともない、遺跡や史跡の様子を具体的にどのように伝えるか…ということである。特に自分が訪れたことのない場所・史跡は、教科書を参照させたとしても、生徒にもいまひとつピンとこない。そういう点ではもっともっと自分の知見を広げ、研修を深めないといけない。

★主な参考文献（授業やワークシート制作で参考にしたもの。ほとんどが簡単に入手できます。）★

- ・長崎県の歴史散歩（山川出版社 2005）…教科書として申請・使用
- ・長崎県の歴史（山川出版社 1998）
- ・長崎歴史文化観光検定 公式ガイドブック（長崎商工会議所 2009）
- ・旅する長崎学1～18（長崎文献社 2006～2011）
- ・長崎さるくマップブック 平成23年度版（長崎観光コンベンション協会 2011）
- ・図説長崎県の歴史：外山幹夫（河出書房新社 1996）
- ・長崎を知る77のキーワード：ナガサキバイデザインセンター（講談社 2010）
- ・長崎学への道案内（長崎文献社 2009）
- ・復元！江戸時代の長崎：布袋厚（長崎文献社 2009）
- ・長崎惣町復元図（長崎文献社 2009）
- ・享和二年肥州長崎図（長崎文献社 2004）
- ・長崎石物語：布袋厚（長崎文献社 2005）
- ・長崎の史跡（街道）（長崎歴史文化博物館 2007）
- ・長崎遊学4 軍艦島は生きている！（長崎文献社 2010）
- ・長崎「電車」が走る今昔：田栗優一（JTB 2005）
- ・街道をゆく13 壱岐・対馬の道：司馬遼太郎（朝日新聞出版 2008）
- ・復活の島 五島・久賀島キリスト教墓碑調査報告書（長崎文献社 2007）
- ・琴海町史（琴海町教育委員会 1991）
- ・玄界灘の島々 海と列島文化第3巻：宮田登ほか（小学館 1990）
- ・東シナ海と西海文化 海と列島文化第4巻：網野善彦ほか（小学館 1992）
- ・クアトロ・ラガツィ 天正少年使節と世界帝国：若桑みどり（綜合社 2003）
- ・千々石ミゲルの墓石発見：大石一久（長崎文献社 2005）
- ・小値賀島周辺海域及び前方湾海底遺跡調査報告書（小値賀町教育委員会 2007）
- ・岩崎彌太郎～三菱の誕生と岩崎家ゆかりのコレクション～（長崎歴史文化博物館 2010）
- ・西海捕鯨業史の研究：鳥巢京一（九州大学出版会 1993）
- ・カクレキリシタンの信仰世界：宮崎賢太郎（東京大学出版会 1996）
- ・カクレキリシタン オラショ一魂の通奏低音：宮崎賢太郎（長崎新聞社 2004）
- ・九州遺産 近現代遺産編101：砂田光紀（弦書房 2005）
- ・長崎旅本「旅する長崎学」公式テキスト：（長崎県文化振興課 2011）

長崎歴史文化博物館を利用した「郷土研究」講座の実践

長崎県立長崎明誠高等学校 橋本正信

1. 講座の概要

本校は、本年度で創立14年目をむかえる総合学科制の学校である。この総合学科における学校独自の設定科目として、本校では開校時より「郷土研究」という講座（2単位）を開設している。平成22年度は2年生と3年生の計22名がこの講座を選択し受講した。まずこの講座の特徴としてあげられるのは、すべての生徒がこの講座に興味があつて選択したわけではないということである。選択する群内に特に興味のわく科目があつたわけではなく、仕方なく本講座を選択した生徒も少なくはなかつた。そのような消極的な理由でこの講座を選択した生徒がいることを念頭に置かないと、この講座は着地点を見失う可能性をはらんでいた。そのうえカリキュラムは授業担当者の裁量による部分が大きいので、担当者にとってかなり頭を悩ませる授業であることは確かである。講座を担当するのは地理歴史科となっており、前任者の異動により平成22年度より、私が担当している。

私が授業を担当するにあたって、すでにシラバスに掲載されている前任者の敷いたレール、すなわち①長崎の歴史を教材の中心にする、②フィールドワーク（巡検）をおこなう ③教科書として「長崎の歴史散歩（山川出版社）」を使用する一を踏まえ、授業を再構築する必要が出てきた。

そこで私が本講座の中心に据えようと思ったのが、長崎歴史文化博物館との連携であった。長崎歴史文化博物館は平成17年長崎市にオープンし、多くの観光客を集めているが、昨年度の郷土研究選択者来館したことがあると答えたのは、22人中わずか2名にすぎなかつた。その理由として考えられるのは、「博物館は文物の展示と難しい説明」という堅いイメージが、いまだに払拭できていないということにあるように思える。しかし近年、博物館は文物の展示をおこなうだけでなく、児童・生徒を対象とする教育プログラムにも力点を置いている。長崎歴史文化博物館もその例外ではなく、学校教育の場での博物館の活用を模索しており、県内の教師を対象とする「パートナーズ・プログラム」を設定し、学校教育における博物館利用の実践について現場の教員とともに共同研究している。私もそこに参加することによって、博物館の研究員による展示物の説明、専門分野の講義をはじめ、他の学校・異校種の教員との交流や情報交換など、他では得られない貴重な体験をさせてもらうことができた。

また長崎歴史文化博物館は、私自身が開設準備段階から関わってきたこともあつて、私にとってこの博物館は身近な存在でもあつた。こういった私自身と長崎歴史文化博物館との関わりのなかで、博物館は貴重な文物を保管・展示することはもちろん、各分野での深い学識・造詣を持った研究員（学芸員）などすぐれた人材の宝庫でもあることを知った。そこでこれらの貴重な文物や優秀な人材、展示などにおける独自のノウハウを学校にフィードバックし、生き生きとした郷土学習ができないかというのが本講座の核となった。そしてこれらの実践を通じて、私が設定した最終目標＝着地点は「生徒が郷土である長崎に自信と誇りを持つこと」に決まっていた。

2. 講座の内容と展開

以上を踏まえて、1年間の授業の内容・構成を考えることとなった。そこでは授業の柱を3つに絞った。以下に3つの点についての実践内容を記す。

(1) 長崎県の通史

まず自作のワークシートを使用し、長崎県の歴史について授業をおこなう。これが1年間を通じてのこの講座の背骨である。史実の説明、図版や写真などは『長崎県の歴史散歩（山川出版社）』を使用、あとは自作のプリントで補った。また今後の特別講義や巡検とリンクさせるため、重点を置く内容を設定した。以下に紹介すると、「古代における大陸との交流」「中世における宇野御厨荘と松浦党」「出島とオランダ」「中国との交流」「キリシタン史」「西海捕鯨」「岩崎弥太郎と三菱」などであるが、実際には世界遺産関連（軍艦島や教会群）、話題性のあるもの（坂本龍馬関連）などにもかなりの時間を割くことになった。しかし前述したとおり、受講する生徒すべてが歴史好きというわけではないので、興味を喚起しつつ、細かすぎる歴史には深入りしないということに気を付けなければならなかった。

郷土の歴史を講義するにあたって特に留意したことは、歴史や史跡の説明にとどまらず、長崎から日本史および世界史を俯瞰した視点で指導をおこなうということである。これは、古代から中世を中心に五島・壱岐・対馬など、現在離島とよばれる島々が大陸との懸け橋となり、日本の歴史を動かしていったという事実があるにもかかわらず、ともすれば地方の歴史が見落とされがちな歴史教科書への私なりのささやかなカウンターのつもりである。

(2) 特別講義

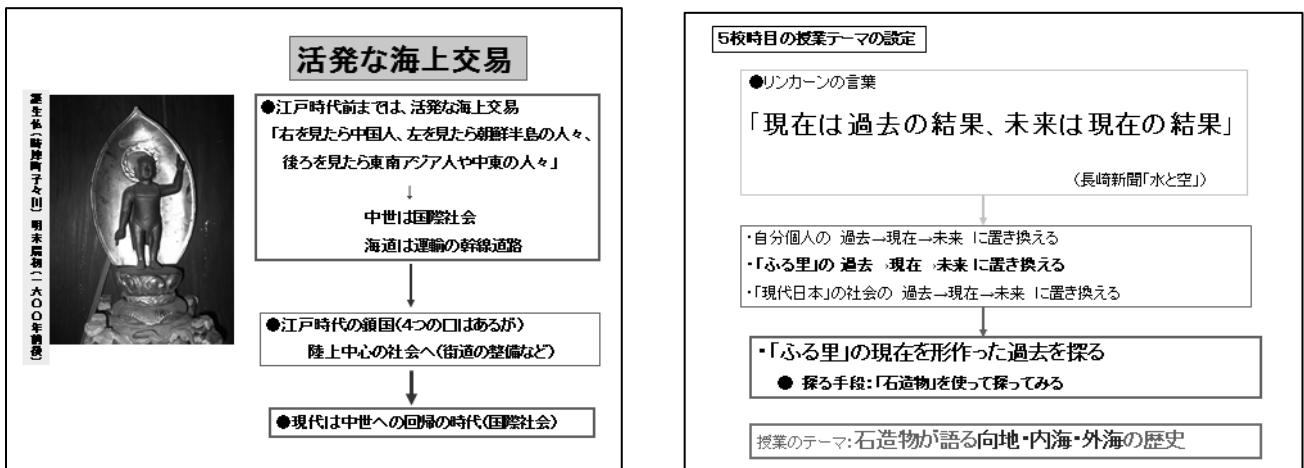
これは長崎歴史文化博物館から研究員などの人材を講師として招へいし、特別講義をおこなってもらい、最新の知識や情報を生徒に提供してもらうことを目的とする。専門家を講師として迎えることで講座に厚みが加わり、生徒にもたらされる情報・知識の幅も飛躍的に広がる。残念ながら、「なんでも屋」=専門性に乏しい私の知識には限界があることは認めざるをえない。しかし博物館から人材を派遣してもらうことで、それを補ってもらおうということでもある。

平成22年度は、特別講師による授業を2回実施した。長崎歴史文化博物館の研究員深瀬公一郎氏による「出前授業“龍馬が生きた時代へタイムスリップ”」と長崎県文化スポーツ振興部（現・長崎歴史文化博物館研究グループ）大石一久氏による「石造物が語る向地・内海・外海の歴史／向地・内海・外海のキリシタン史」である。前者は年度当初の計画にはなかったのだが、NHK大河ドラマ「龍馬伝」と長崎歴史文化博物館のタイアップ企画に応募し、本校での実施が決定された。幕末の長崎について、映像資料や長崎歴史文化博物館が所有している実物教材などを利用し、坂本龍馬というタイムリーなテーマと長崎の歴史をうまく関連させて話をしていただき、生徒にも好評だった。

後者は当初から本講座の目玉に据えていた企画である。私がワークシートで講義をしてきた「長崎県の通史」は氏の講義への助走と言っても過言ではない。講師の大石氏は長崎県だけでなく全国的にも著名な石造物の研究者である。近年はキリシタン史の研究にも力を入れており、生徒の知らない視点から郷土の知られざる歴史に焦点をあて、紹介してくれることを期待しての人選であった。年度当初から氏と数回にわたり打ち合わせを重ね、講演の内容を詰めていった。大石氏に対しては「講演の内容はできるだけ平易を心掛けてほしい、しかし最新の研究成果などにも触れてほしい」という矛盾したことを、失礼を承知でお願いした。

また生徒の興味・関心を喚起させるため、本校生徒の多く居住している長崎市北部・時津町・長与町・西彼杵半島に関する歴史にも触れていただきたいということもお願いした。幸いにも氏は高校での教員生活も長く、またかつてその多くが大村藩領であった西彼杵半島は、現在の氏の研究テーマとも合致する部分もあり、私の無理な要求をことごとくクリアしていただき、2時間の講演であったが、充実した講演になった。

なおこの講義においては、生徒を通じ保護者への案内も行い、若干名の保護者の参加を得た。次はその講義で使われたスライドの一部である。



生徒の感想文より (抜粋)

- 今住んでいる「西海」が1600年代の地図に出ていたことを聞いてとても驚きました。「西海」は旧琴海町西海郷で、「郷」という地名がつくと大村藩領であったことや、今の佐世保～針尾くらいまで平戸藩領で、江戸時代の六藩五領一天領だったことを知ることができました。
- キリシタン時代は1) 救いの宗教、2) 南蛮貿易や南蛮貿易の手先となって動く活動家という2つの側面がり、どちらかを見るかによって印象が変わるために、ちゃんと2つの側面を見る必要があると先生はおっしゃっていました。この言葉は歴史を見るとときだけではなく、日常生活においても言えることだと思いました。
- 大石さんが最後に話した「歴史学の本領は、行動の意義を評価すること以上に行動の意味を理解すること」というのは、とても感動しました。今回のキリシタンの話でも良いのか悪いのか考えていきたいと思えます。
- 今回の話で一番印象に残っている話は「キリスト教の2つの顔」についてです。私は今までキリスト教は人々を救うために良いことをしてきたのだと思っていました。しかし、一方では仏像や寺を焼き払ったりするなど幕府が行った弾圧に近いことをしていたのだろ知り、驚きました。また、新しい歴史を知ることができ、自分の知っている歴史はほんの一部なのだ実感しました。大石先生のいうように「現代人が一番えらい」という先入観なしに客観的に歴史を見ることがとても大切なのだと実感しました。
- 今日の講座を聞いて私は歴史は深いなあと思いました。石造物だけでもさまざまな形や意味があり、その当時の背景を考えることができる大切な時代の足跡だと思いました。この足跡があるからこそ、今の自分たちの時代があるのだと、授業の最初に聞いたリンカーンの言葉「現在は過去の結果、未来は現在の結果」の意味がすごくよくわかりました。
キリシタン時代について、授業で少し学んでいたもので、すごく興味がありました。以外にもわりと近いところや知っているところに、キリシタン関係の碑やお墓があり、びっくりしました。まさか長与にあんなにキリシタンのお墓があることにとてもびっくりしました。か

つての人々の「無機物さえも有機物ととらえる豊かな感性」を今私たちは未来のために学ばなければならないな、と思いました。

- 私の地元である長与が先生が口にされるたびに、私は長与に16年も住んで育ててきたのに、こういったキリシタンのことについて全く知らなかったことを恥ずかしく思いました。このことについて講話を聞いて個人的に興味をもったことが何点かあるので、個人的に調べようと思います。



私はこれらの生徒の感想を読み、驚きを禁じ得なかった。というのは、当初の狙いであった長崎の歴史やキリスト教受容についての驚きや意外性はもちろんのこと、これらの感想が単なる郷土史の範疇を越えて、歴史の本質にまで言及されていると思ったからである。大石氏の講義の質の高さは言うまでもないが、それらを正確に感じ取ることができた生徒の力にも改めて驚かされた。これらの感想は私自身の授業だけでは決して得られるものではないことは確かだった。専門的な知識に裏打ちされた大石氏の郷土の歴史へかける情熱が生徒の心を動かしたのだ。

私を含め教師はときにプライドの塊であり、自分の授業方法に固執する傾向がある。しかしながら本講座のような総合的な知識を要求される授業については、こだわりを捨て一面ではファシリテーター役を演じ、積極的に専門家や研究者の協力を仰いだ方がよいと確信するようになった。これらの感想を得たことにより、次に計画する長崎歴史文化博物館での研修についても、かなりレベルの高いものが行えるという期待と弾みが生まれた。

(3) 長崎歴史文化博物館での研修

いよいよ教室を飛び出し、校外学習をおこなうときがやってきた。実際に長崎歴史文化博物館に訪れ、長崎の歴史と文化に触れようという企画である。それと同時に博物館という施設そのものに親しんでほしいという目的もあった。ここで留意すべきことは、漠然と博物館に行き、

展示物を眺めるだけでは、一般の観光客と同じであるということである。それでは学校教育の一環とは言えない。しかし生徒はこの企画を非常に楽しみにしており、その期待を裏切ってもいけない。そのための「仕掛け」を仕込まなければならない。そこで事前に博物館の教育グループの研究員の方と打ち合わせをおこない「仕掛け」を作った。また単なる物見遊山に終わらせないために、生徒に対しても入念な事前指導をおこなった。そのポイントを以下にあげると、

- ①研修の意義と目的を生徒に理解させる。
- ②ワークシートで見学のポイントを提示し、事後記入し提出させ、評価をおこなうことを確認する。
- ③事後、感想レポートの提出を求めることを確認
- ④研修の内容から定期考査の試験範囲とすること。
- ⑤博物館までの交通手段・ルートを各自調査する。

郷土研究 WS	
於 長崎歴史文化博物館	
2 年 2 組 〇〇 番 氏名 〇〇〇〇	
1. 博物館とは (概要・機能・役割など)	
<p>博物館の主役は…「モノ」=資料 モノを…集める (収集) 未来に残す (保存) 調べる (調査研究) 見せる (展示) 伝える (教育) の5つが基本である。</p>	<p>《長崎歴史文化博物館》 2005年11月3日 開館 主に常設展示では、 ◎1500年代半ば～1600年代初め キリスト教伝来と広まり→禁教 ◎1600年代半～1860年代 オランダ・中国 ◎1850年代～1900年 日本の近代化に大きく貢献 の5つにわけて展示している。</p>
2. バックヤードツアーの感想	
<p>カビが生えない工夫がされている文書収蔵庫、収蔵庫はとても大きく、多くの歴史や長崎に関するものが保存されておりすごかった。 修復室では日常でも役に立つような化学のりと自然のりの違いなども教えていただき勉強になった。また、昔の人は最も良い方法 (和紙と炭) で文書を残していき驚きがあった。 博物館は展示スペースの場所だけでなく、収蔵庫からの運び入れが最短でできるつくりになっていてすごいと思った。3500kgまで運べるエレベーターは印象に残った。</p>	

(図1 博物館で記入するワークシート)

これらの5つの点を事前に1時間をかけ説明し、生徒に対し、長崎歴史文化博物館での研修が単なる見学ではない「学習の場」であることを確認した。

実際の研修は3つの場面に分かれた。第1にオリエンテーションを兼ねて、研究員に博物館の目的・存在意義を語っていただいた。ここで生徒は改めて博物館が単なる見学の場でないことを知ることになる。

次に生徒を2つの班に分けて“バックヤード・ツアー”を実施した。これは通常の施設見学では決して立ち入ることの許されない「博物館の裏側」を見学するもので、今回の「仕掛け」

のひとつである。生徒は室温・湿度が厳重に管理され、セキュリティシステムに守られている収蔵庫に実際に入れてもらったほか、展示物運搬用の巨大な昇降機にも乗せてもらい、思わず息をのんでいた姿が印象であった（図3）。

また、別の部屋（古文書修復室）で見た古文書の修復は、全員が初めて見るものであった。傷んだ古文書を読める状態に復元するというその作業の意義や、細かな作業のノウハウを担当する職員から聞き、一番印象に残ったと感想を書いた生徒も多かった。（図4）



図2 オリエンテーション



図4 古文書修復見学



図3 バックヤードツアー



図5 常設展示室見学

最後は、常設展と特別展「岩崎弥太郎と長崎」の見学である。常設展では研究員に解説を依頼し、基本的な知識の定着をはかった。常設展ではすべてを十分に見る時間的余裕がなかったので、自分の印象に残った展示物を3つ取り上げ、それを後にレポートにするという形をとった（図5）。研究員の解説を一通り聞いた後、生徒は思い思いの場所に散り、展示物のメモに余念がなかった。特別展である「岩崎弥太郎展」は特に縛りはかけずに自由に見学をおこなわせた。

この長崎歴史文化博物館での研修は14時集合、17時解散という短い時間ではあったが、内容の濃い研修ができた。以下に生徒の感想の一部をあげてみる。

○ 岩崎弥太郎展では、写真も多く展示してあって、岩崎弥太郎がどんな顔をしていたのかわかって面白かったです。また、そういった写真を見て気づいたのが、どの写真にも多くの確率で外国人が写っているということです。当時、長崎は中国やオランダとの交流があったことは知っていましたが、日本人と外国人が一緒に働いているとは全く想像しませんでした。出島や唐人屋敷はありますが、たんに外国人を「異国から来た人」と思うのではなく、お互いにあらゆる面で支え合うことの大切さを、岩崎弥太郎は三菱などを通し当時からたくさん

の人に伝えていたのかなあとと思うと、本当にすごいと思います。

- 今回の長崎歴史文化博物館の見学で博物館に対するイメージが大きく変わりました。そして歴史・長崎について今以上に興味を持つことができました。とても海外との貿易が盛んだった長崎。いろんな長崎を発見することができ、長崎をより好きになりました。見学により自分の視野を広げることができたと思います。
- まず最初に驚いたのは書庫の設備の厳重さです。厚手のドアや温度、湿度の調整、電子式の本棚など力の入った設備で、中の資料がどれだけ貴重なものだということが、ひしひしと伝わってきました。このような設備があるから未来にちゃんと残しておくことができるんだと思いました。この何百年前からの歴史の足跡を私たちが止めないように、自分たちも未来に残すということをちゃんと考えていかないといけないと思いました。
- 「学芸員」の方から教えてもらうことは何もかも新鮮でとても楽しかったです。長崎に城がない理由などあまり深く考えたことがありませんでした。幕府直轄の奉行所があったことを知り、なるほどと思いました。修復室は私が一番見てみたかった所なので、入れて嬉しかったです。すごくボロボロの書物をどうやって修復されるのか興味があったからです。泥水でペカペカのものや、虫に食われてボロボロなものたくさんありましたが、修復する人は慣れた手つきで修復していたので、やはりプロはすごいなと思いました。裏側から紙をはる作業もきっと私だったら、失敗してしまうんだろうなと思いました。見学できて良かったです。
- 生まれた地が長崎で18年間も過ごしてきたため、歴史には全くと言っていいほど興味がありませんでした。しかし、高校3年生で郷土研究の授業を受け、少しずつ長崎の歴史にも興味が出てきました。そこで講師の方が龍馬伝に関する説明をしに来てくださって、真剣に楽しみながら聴けました。話を聞くだけしかしなかったもので、今回の歴史博物館に実際にいくということは非常に嬉しかったです。中が広かったので疲れるだろうと思っていたにもかかわらず、学芸員の方の説明を聞きながら現物を見てまわっていると疲れを感じるどころか、時間も忘れて先生に迎えに来てもらっていました。
- 私が内定をいただいている三菱重工業長崎造船所のことがとても詳しく書かれていた。私はこの見学を通して、三菱重工の歴史や岩崎弥太郎が大隈重信と関係が深かったということも、改めて学び、とても良い見学となりました。
長崎の歴史はとても深く、これからも長崎で住んでいく私にとって学ばなければならなかったことですし、長崎の歴史を知ることによって本当に良かったです。これから卒業して、長崎のことを誰かから聞かれたときは、胸をはって答えられる自信ができました。

3. 平成23年度の取り組み

平成23年度は前年度の反省を踏まえて、教室での「長崎県の通史」に「長崎歴史文化博物館での研修および特別講師による講義」でアクセントを加えるという基本スタイルは踏襲しつつ、2つの点を新たに授業カリキュラムに加えた。

1つは長崎商工会議所主催の「長崎歴史文化観光検定3級」に合格することを目標に長崎の歴史・文化に対する知識を深めることである。検定合格を年度当初より目標として生徒に示し、生徒の“やる気”を喚起させることもねらいとしてあった。授業の中では「公式テキスト」を

用いて、問題演習をおこなった。また定期考査にも必ず検定問題を入れることによって、知識の定着をはかった。しかし受験日が他の検定と重なっていたり、さらに新人戦の日程などと重なってしまい、全員受験というわけにはいかなかったのが残念であったが、それでも7名が受験した。平成24年3月に発表される合否が待たれるところである。(※結果、合格者は2名、うち1名は私)

もう1点は巡検の充実である。平成22年度は3月に1回おこなったのみであったが、実際に史跡を探訪することは生徒へ残す印象も強いことから、平成23年度は7月と2月の2回おこなうことにした。これらの巡検は、授業で学習したことや文献に書かれていることを、実際に自分の目で確認・検証するという意味で、この講座にとっては非常に意義の大きいものである。また現在の街の様子から、古写真や古地図などを元に当時の様子をイメージさせることも、生徒の歴史的な想像力を膨らませるという意味で重要であると考えた。

7月は「東山手地区散策」、2月は「出島と新地中華街」…それぞれテーマを設定し巡検をおこなった。7月は炎天下、2月は酷寒という厳しい天候ではあったが、生徒は普段の教室での授業とは趣きが違うこともあって、目を輝かせながらのびのびと活動している様子が印象的であった。



(7月 東山手地区散策)



(2月 出島・新地中華街・唐人屋敷)

4. 総括および今後の展望

歴史や地理の授業でも常々感じることもであるが、この郷土研究の授業でも生徒が見たことも聞いたこともない史実および遺跡・史跡を、どのようにより具体的に掴ませるかという点で苦勞した。まだ実際に私自身が訪れたことのない県内の史跡も多く、資料や写真を参照させたとしても、それだけでは生徒の心には響かない。加えて、映像資料などを積極的に活用したいが、長崎県の歴史について系統的・地域的に編集した映像資料は今のところ見当たらない。(この点で私は、通史的または地域的に編集された長崎県全域における映像ソフトの登場を強くのぞむ)。

そのうえで当然のことながら、私自身がさらに研修を深め知見を広げないといけないのだが、長崎歴史文化博物館を訪れ、博物館の誇る貴重な人材を派遣していただいたことは、この講座の弱点＝私の弱点を、補って余り有る体験であった。このことは最後の授業で書かせた生徒の感想文からも見て取れる。

- 正直最初のほうは長崎のことについて調べるのはつまらないと感じていました。しかし、プリントや郷土学の教科書を見ていく中で、日本一や世界一が意外と多いなと感じたり、知

らなかった歴史や建造物を知ることによって興味を持つようになりました。初めて行った長崎歴史文化博物館では自分が持っていた博物館のイメージを変えるなど楽しく学ぶことができよかったです。

冬休みに行ったさるくでは、小学生・中学生で見学した時とは違う考えを持つことができるなど、実際に行ってみないと分からないと感ずることができ勉強になりました。自分が学習した知識を家族や友達に教えていきたいです。自分の郷土をより好きになることができよかったです。

- 今まで長崎にずっと住んできたけど、長崎の知らないところがたくさんありました。受講していくうちに、初めて知ったり、興味を持てたりと、自分の知識が広まりました。

長崎歴史文化博物館へ行ったことはとても勉強になりました。展示されている物を見ても勉強になったけど、博物館の学芸員さんの話や、裏側を見てとても心に残りました。

- 特に印象に残っているのが一度だけ校外に出た博物館へ行った事です。貴重な資料やそして弥太郎展も見ることができました。実際に裏でも細かな作業を行っている人がいるから、綺麗な形のまま、展示も見れるんだなあと思改めて感じました。

この講座を受講した最初に気持ちは、ただ地元長崎のことをもっとより深く知りたいと思ただけでしたが、今はそれ以上に、自分が卒業し、もし県外に出た時、長崎の良いところを伝えていき、また他の場所から見た長崎のイメージというのを感じてみたいと思いました。将来へつながる講座で受講してよかったと思しました。

- 元々歴史が好きなほうだったので、博物館のバックヤードや岩崎弥太郎展は、すごく楽しく学ぶことができました。この郷土研究で長崎に興味を持った私は3年生の課題研究で「オリジナル長崎ガイドブック」を作ろうかと考えています。郷土研究をとったおかげで、自分に興味のあるものが増えて良かったなと思しました。

そもそも前任者の異動を受けて、急遽この講座を担当することになったのだが、準備不足は否めなかった。前任者が残してくれたプリントや資料をそのまま使ったとしても、同じスタイルで授業をすることは無理である。そこで、私はこれまで知りえた大石氏をはじめとする貴重な人材や、長崎歴史文化博物館を利用することで、この講座における自分の不足する部分を補おうと考えた。しかし実際は当初から常に自転車操業状態であって、綿密に計画的された授業とは言い難いものであった。ただ、その中でも私が授業の核としてずっと心においていたのは「郷土に対し自信と誇り」を持たせたいということであった。私の準備不足、力不足を補うのは「長崎に生まれてよかった」「長崎って君たちが思うより、ずっとすごいところだ！！」と実感してほしいという、押し付けがましくも熱い気持ちであった。生徒の感想文を読むと、当初考えていた授業の着地点の範囲内には到達し、おおむね私の思いは伝わったのではないかと感ずる。

本校の実態を踏まえると、生徒たちの約半分近くは高校卒業後長崎を離れることになるだろう。そしてそれぞれが進学・就職した土地で、郷土の長崎について語るときがいずれやってくる。そのときこの講座で見聞きしたことが役立ってくれたら、授業を担当した者としてこれほど嬉しいことはない。彼らのお国自慢を聞き、長崎に興味を持ち、実際に訪れる人が増えるなら、彼ら一人ひとりが本当の“長崎の宣伝マン”と呼ぶにふさわしい。